

授業科目名： 特別支援教育論		教員の免許状取得のための 必修科目		単位数： 2単位		担当教員名： 千田 光久	
						担当形態： 単独	
科 目		特別支援教育に関する科目					
施行規則に定める 科目区分又は事項等		特別支援教育の基礎理論に関する科目					
授業のテーマ及び到達目標							
<p>(1) 授業テーマを「特別支援教育の理念、歴史、思想並びに社会状況、制度的事項」とする。</p> <p>(2) 授業の到達目標は次に示す①～⑨の理解である。①特別支援教育制度の成立②インクルーシブ教育の理念を踏まえた特別支援教育の展開③特別支援学校の機能と役割④障害のある児童等の教育の歴史⑤障害のある児童等に関わる教育思想⑥特別支援教育の指導上の課題⑦近年の特別支援教育政策⑧特別支援教育に関連する法規⑨学習指導要領の役割・機能・意義</p>							
授業の概要							
<p>授業では、上記の「授業のテーマ及び到達目標」に即して下記に示した「授業計画」で学修をするが、授業は座学だけでなく、グループディスカッションも組み入れて行う。</p> <p>なお、授業においては本学の理念である「共生」を根底に据え、社会の人々に共生の意識と価値観を醸成するにはどうすればよいかを思索しながら学修を深めたい。</p>							
授業計画							
第 1 回：インクルーシブ教育とサラマンカ宣言、障害者の権利に関する条約							
第 2 回：特別支援教育の成立、理念と特別支援学校・特別支援学級、通級による指導の制度							
第 3 回：特別支援学校が有する機能・役割							
第 4 回：障害のある児童等の教育に関する歴史と教育思想							
第 5 回：障害のある児童等の教育に関する教育思想							
第 6 回：特別支援教育の指導上の課題 1 小・中・高校における課題							
第 7 回：特別支援教育の指導上の課題 2 特別支援学校における課題							
第 8 回：特別支援教育の指導上の課題 3 交流及び共同学習の推進についての課題							
第 9 回：特別支援教育における近年の施策の動向							
第 10 回：特別支援教育に係る法規							
第 11 回：特別支援学校等の教育要領・学習指導要領							
第 12 回：自立活動							
第 13 回：知的障害特別支援学校における教科指導							
第 14 回：重複障害児に関する教育課程							
第 15 回：特別支援教育の今後の方向性							
定期試験							

テキスト

- (1) 小林倫代 (編著) 『改訂版 教員と教員になりたい人のための特別支援教育のテキスト』 学研プラス 2022年 ISBNコード：9784058017623

参考書・参考資料等

- (1) 荒巻恵子 『インクルージョンとは、何か?』 日本標準 2019 年
ISBN コード：9784820806585
- (2) 国立特別支援教育総合研究所 『特別支援教育の基礎・基本 新訂版 共生社会の形成に向けたインクルーシブ教育システムの構築』 ジアース教育新社 2015 年
ISBN コード：9784863712973
- (3) 文部科学省初等中等教育局特別支援教育課 (2021) 障害のある子供の教育支援の手引
～子供たち一人一人の教育的ニーズを踏まえた学びの充実に向けて～
https://www.mext.go.jp/a_menu/shotou/tokubetu/material/1340250_00001.htm
- (4) 文部科学省 学制百年史
https://www.mext.go.jp/b_menu/hakusho/html/others/detail/1317552.htm
- (5) 文部科学省 学制百二十年史
https://www.mext.go.jp/b_menu/hakusho/html/others/detail/1318221.htm
- (6) 文部科学省 学制百五十年史
https://www.mext.go.jp/b_menu/hakusho/1420041_00011.htm
- (7) 特別支援学校教育要領・学習指導要領解説自立活動編 (幼稚園・小学部・中学部)
- (8) 特別支援学校小学部・中学部学習指導要領 平成 29 年告示
- (9) 特別支援学校小学部・中学部学習指導要領解説総則編 (幼稚園・小学部・中学部) 平成 30 年 3 月
- (10) 特別支援学校小学部・中学部学習指導要領解説各教科編 (小学部・中学部) 平成 30 年 3 月
- * (7) ～ (10) の資料は文部科学省ホームページで PDF 版あり。
<文部科学省ホームページURL>
https://www.mext.go.jp/a_menu/shotou/tokubetu/main/1386427.htm
- (11) 特別支援学校高等部学習指導要領 平成 31 年 2 月告示
https://www.mext.go.jp/content/20200619-mxt_tokubetu01-100002983_1.pdf

学生に対する評価

レポート評価 (25%)、スクーリング評価 (25%)、科目修得試験 (50%) の割合で総合評価する

授業科目名： 視覚障害の心理・生理 ・病理Ⅰ	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 2単位	担当教員名： 石川 大・澤田真弓 担当形態： オムニバス
科 目	特別支援教育領域に関する科目		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	心身に障害のある幼児、児童又は生徒の心理、生理及び病理に関する科目 (中心領域：視)		
授業のテーマ及び到達目標			
・ 視覚障害のある幼児、児童生徒の視機能の低下の要因となる病理面と心理面及び生理面の特徴並びにそれらの相互作用について理解する。			
・ 視覚障害のある幼児、児童生徒一人一人の知覚や認知の特性を理解するとともに家庭や関係機関との連携について理解する。			
(1) 視覚器の構造及び視機能の低下の要因となる眼疾患と視覚的困難の関係を理解している。			
(2) 視覚障害児者の発達、認知、学習心理学的側面について基礎的な知識を獲得している。			
(3) 視知覚や触知覚及び認知の特性を把握することの重要性について理解している。			
(4) 家庭や医療機関との連携の重要性について理解している。			
授業の概要			
視覚障害とは、視力、視野、色覚等の視機能の永続的低下である。視覚障害を理解するためには、教育課程や指導法だけではなく、その背景にある視機能や視知覚特性の基本的な理解が必要である。また、聴知覚や触知覚の特性についての理解も必要である。そうした知覚、生理の基礎を踏まえた上で視覚障害と関連の深い代表的な眼疾患について学び、加えて盲児や弱視児の発達や心理への影響を学ぶとともに、幼児、児童生徒の発達を促すために家庭や医療機関との連携の重要性について理解を深める。			
授業計画			
第1回：視覚障害とは（担当：石川）			
第2回：視覚障害のある子どもの理解の基本（担当：石川）			
第3回：視覚障害のある子どもの支援の基本（担当：石川）			
第4回：眼の構造と働き（担当：石川）			
第5回：視機能（視力、屈折、視野）（担当：石川）			
第6回：視機能（光覚、色覚、コントラストと順応）（担当：石川）			
第7回：視機能（医学的弱児、斜視、両眼視）（担当：石川）			
第8回：主な眼の病気とその特性（1）未熟児網膜症・網膜色素変性症（担当：石川）			
第9回：主な眼の病気とその特性（2）視神経萎縮・小眼球（担当：石川）			
第10回：主な眼の病気とその特性（3）緑内障・白内障（担当：石川）			

第11回：主な眼の病気とその特性（4）黄斑変性・角膜疾患（担当：石川）

第12回：教育的視機能評価の考え方（担当：石川）

第13回：見る機能の発達と人間の行動（担当：澤田）

第14回：視覚障害のある子どもの心理特性（担当：澤田）

第15回：家庭や医療機関との連携の在り方（担当：石川）

定期試験

テキスト

（1）香川邦生・千田耕基 編著『小・中学校における視力の弱い子どもの学習支援』

教育出版 ISBNコード：9784316802701

（2）青柳まゆみ・鳥山由子 編著 『新・視覚障害教育入門』 株式会社ジアース教育新社

ISBNコード：9784863715332

参考書・参考資料等

（1）香川邦生・猪平眞理・大内進・牟田口辰己（2016）視覚障害教育に携わる方のために

〔5訂版〕 慶應義塾大学出版会 ISBNコード：9784766423679

（2）大河原 潔 他（編著）「視力の弱い子どもの理解と支援」 教育出版

ISBNコード：9784316338606

（3）文部科学省初等中等教育局特別支援教育課（2021）障害のある子供の教育支援の手引

～子供たち一人一人の教育的ニーズを踏まえた学びの充実に向けて～

<文部科学省ホームページURL>

https://www.mext.go.jp/a_menu/shotou/tokubetu/material/1340250_00001.htm

学生に対する評価

レポート評価（25%）、スクーリング評価（25%）、科目修得試験（50%）の割合で総合評価する

授業科目名： 視覚障害の心理・生理・病理Ⅱ	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 2単位	担当教員名： 澤田 真弓 担当形態： 単独
科 目	特別支援教育領域に関する科目		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	心身に障害のある幼児、児童又は生徒の心理、生理及び病理に関する科目 (中心領域：視)		
授業のテーマ及び到達目標			
<p>(1) 視覚障害の概念や定義について理解し、視覚の仕組みや機能などについて説明することができる。</p> <p>(2) 視覚障害の主な原因疾患の病態、視機能への影響について説明することができる。</p> <p>(3) 視覚障害児の視機能評価や発達評価、心理評価について説明することができる。</p> <p>(4) 視覚障害児の概念形成とその指導について説明することができる。</p>			
授業の概要			
視覚障害とはどのような障害なのか、視覚器の構造や情報処理の仕組み等の基礎知識を理解したうえで、主な眼疾患と教育的対応について学ぶ。また、視覚による認知や行動、心理、発達等の側面から、個々の子どもの実態をどのような視点で把握し、指導につなげていくのかを学ぶ。			
授業計画			
第1回：視覚障害の基礎知識			
第2回：視機能評価の実際			
第3回：主な眼疾患と教育的対応			
第4回：視覚障害児の実態把握の視点			
第5回：触知覚・視覚認知の特徴			
第6回：光覚・色覚の特徴			
第7回：形態覚の特徴			
第8回：視覚障害児の知能・記憶・思考			
第9回：視覚補助具の光学的特性と指導のポイント			
第10回：視覚障害児の発達と支援①（発達における視覚の役割）			
第11回：視覚障害児の発達と支援②（社会性の発達）			
第12回：視覚障害児の概念形成と指導①（言葉の概念形成と指導）			
第13回：視覚障害児の概念形成と指導②（空間の概念形成と指導）			
第14回：見る機能の発達を促す指導			
第15回：自己の障害の理解と対応への配慮			

定期試験
<p>テキスト</p> <p>(1) 小林秀之・澤田真弓編著『特別支援教育のエッセンス 視覚障害教育の基本と実践』 慶應義塾大学出版会 ISBNコード:978-4-7664-2861-2</p> <p>(2) 香川邦生・千田耕基 編著『小・中学校における視力の弱い子どもの学習支援』 教育出版 ISBN コード : 978-4-316-80270-1</p> <p>(3) 文部科学省初等中等教育局特別支援教育課 (2021) 障害のある子供の教育支援の手引 ～子供たち一人一人の教育的ニーズを踏まえた学びの充実に向けて～ <文部科学省ホームページURL> https://www.mext.go.jp/a_menu/shotou/tokubetu/material/1340250_00001.htm</p>
<p>参考書・参考資料等</p> <p>(1) 独立行政法人国立特別支援教育総合研究所 『特別支援教育の基礎・基本 2020』 ジアース教育新社 ISBN コード : 978-4-86371-548-6</p> <p>(2) 宮本慎也・竹田一則 編著 『障害理解のための医学・生理学』 明石書店 ISBNコード : 978-4-7503-2546-0</p> <p>(3) 香川邦生 著 『障害のある子どもの認知と動作の基礎支援 手による観察と操作的活動を を中心に』 教育出版 ISBNコード : 978-4-316-80395-1</p>
<p>学生に対する評価</p> <p>レポート評価 (50%)、科目修得試験 (50%) の割合で総合して評価する</p>

授業科目名： 聴覚障害の心理・生理 ・病理Ⅰ	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 2単位	担当教員名： 原田 公人 担当形態： 単独
科 目	特別支援教育領域に関する科目		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	心身に障害のある幼児、児童又は生徒の心理、生理及び病理に関する科目 (中心領域：聴)		
授業のテーマ及び到達目標 (１) 聴覚障害の心理、生理・病理の観点から、聴覚の仕組みや機能、聴覚障害の特徴や原因、聴覚障害が発達に及ぼす影響、などについての基礎知識を身につける。 (２) 社会的環境における聴覚障害児の発達を理解し、聴覚障害児の発達上の問題点について論理的に説明できるようになる。 (３) 言語障害の種類、原因や特徴についても基礎を理解する。			
授業の概要 本授業では、主として聴覚障害児の生理・病理の概要について取りあげる。生理については、耳の構造と機能、聴覚障害の種類、聴力検査などについて学習する。また、病理については、代表的な耳疾患に触れ、耳疾患や聴覚障害が子どもの発達に与える影響についても学習する。 言語障害については、構音障害、吃音、聴覚情報処理障害（APD）を取り上げ、状態像や対応を学習する。			
授業計画 第1回：聴覚障害とは 第2回：耳の構造と機能① 聴覚伝導路、外耳、中耳 第3回：耳の構造と機能② 内耳、聴覚中枢 第4回：聴覚障害の種類（伝音難聴、感音難聴）、両耳聴 第5回：脳の発達と乳児の難聴 第6回：オーディオグラム、聴力検査①（検査法） 第7回：聴力検査②（聴力検査の実際） 第8回：乳幼児への聴力検査と新生児聴覚スクリーニング 第9回：耳疾患①（外耳、中耳） 第10回：耳疾患②（内耳） 第11回：子どもの難聴 第12回：軽度・中等度難聴、一側性難聴 第13回：聴覚障害児の言語獲得過程 第14回：言語障害（構音障害、吃音）			

第 15 回：聴覚情報処理障害（APD）

定期試験

テキスト

- （１） 宍戸和成/原田公人（2023）「聴覚障害教育の基本と実践」慶應義塾大学出版会

参考書・参考資料等

- （１） 特別支援学校小学部・中学部学習指導要領 平成 29 年告示
- （２） 特別支援学校小学部・中学部学習指導要領解説総則編（幼稚部・小学部・中学部）平成 30 年 3 月
- （３） 特別支援学校小学部・中学部学習指導要領解説各教科編（小学部・中学部）平成 30 年 3 月
- （４） 特別支援学校高等部学習指導要領 平成 31 年 2 月告示
- ＊（１）～（４）の資料は文部科学省ホームページで PDF 版あり。
- ＜文部科学省ホームページURL＞
- https://www.mext.go.jp/a_menu/shotou/tokubetu/main/1386427.htm
- （５） 文部科学省 著作（2018）特別支援学校教育要領・学習指導要領解説自立活動編（幼稚部・小学部・中学部） 開隆堂出版 ISBN コード：9784304042317
- ＊本資料は、文部科学省ホームページに PDF 版あり
- ＜文部科学省ホームページURL＞
- https://www.mext.go.jp/a_menu/shotou/tokubetu/main/1386427.htm
- （６） 文部科学省初等中等教育局特別支援教育課（2021）障害のある子供の教育支援の手引 ～子供たち一人一人の教育的ニーズを踏まえた学びの充実に向けて～
- ＜文部科学省ホームページURL＞
- https://www.mext.go.jp/a_menu/shotou/tokubetu/material/1340250_00001.htm
- （７） 日本音響学会 編『音のなんでも小事典』 講談社 ISBN コード：9784062571500
- （８） 鈴木 淳一・小林 武夫『耳科学―難聴に挑む―』 中公新書 ISBN コード：9784121015983
- （９） 小寺 一興『補聴器フィッティングの考え方』 診断と治療社
- ISBN コード：9784787818102
- （１０） 日本聴覚医学会 編『聴覚検査の実際(第 4 版)』 南山堂
- ISBN コード：9784525370442
- （１１） 脇中 起余子『聴覚障害教育 これまでとこれから―コミュニケーション論争 9 歳の壁・障害認識を中心に―』 北大路書房 ISBN コード：9784762826900
- （１２） 我妻 敏博『聴覚障害児の言語指導～実践のための基礎知識～』 田研出版
- ISBN コード：9784860890346
- （１３） 四日市 章 編著『リテラシーと聴覚障害』 コレール社
- ISBN コード：9784876377114

学生に対する評価

レポート評価（25％）、スクーリング評価（25％）、科目修得試験（50％）の割合で総合評価する

授業科目名： 聴覚障害の心理・生理 ・病理Ⅱ	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 2単位	担当教員名： 原田 公人 担当形態： 単独
科 目	特別支援教育領域に関する科目		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	心身に障害のある幼児、児童又は生徒の心理、生理及び病理に関する科目 (中心領域：聴)		
授業のテーマ及び到達目標 (1) 聴覚障害児の心理学的知見を獲得し、これを活用した聴覚障害児に対する理解力を養う (2) 聴覚障害教育に関わる、基礎的な病理学的な理解のもと、聴覚障害児教育や聴覚学分野における聴覚活用の意義や最近の聴覚補償技術を理解する。			
授業の概要 本授業では、主として聴覚障害児の心理の概要について取りあげる。具体的には、性格特性と精神保健を扱い、聴覚障害児が用いるコミュニケーション方法の観点から心理の理解に必要な知識を学習する。 また、オージオロジー（聴覚学）の視点から、補聴器や人工内耳の基礎について学習する。 さらに、聴覚障害児・者の社会生活等の視点から聴覚障害教育の今日的課題を考える。 全体を通して、聴覚障害のある幼児、児童又は生徒の心理・生理・病理の特徴や各領域の相互作用や特性の理解の深化を図りつつ、家庭や多機関連携についても理解する。			
授業計画 第1回：聴覚と発達 第2回：聴覚障害：聴覚的認知 第3回：聴覚障害児の性格特性と精神保健 第4回：聴覚障害児・者の障害認識（自己認識）と社会的受容 第5回：コミュニケーション方法（手話、指文字、キュードスピーチ） 第6回：手話とろう文化 第7回：聴覚の活用（オージオロジー） 第8回：聴覚リハビリテーション（補聴器） 第9回：聴覚リハビリテーション（人工内耳） 第10回：聴覚障害教育における ICT 活用（補聴援助システム） 第11回：聴覚障害教育における情報保障 第12回：聴覚障害児の学校生活 第13回：聴覚障害児・者の社会生活 第14回：聴覚障害児・者の保護者（家族）支援、多機関連携			

第15回：ライフステージにおける聴覚障害の影響

定期試験

テキスト

(1) 宍戸和成/原田公人 (2023) 「聴覚障害教育の基本と実践」 慶應義塾大学出版会

参考書・参考資料等

(1) 特別支援学校小学部・中学部学習指導要領 平成 29 年告示

(2) 特別支援学校小学部・中学部学習指導要領解説総則編 (幼稚部・小学部・中学部) 平成 30 年 3 月

(3) 特別支援学校小学部・中学部学習指導要領解説各教科編 (小学部・中学部) 平成 30 年 3 月

(4) 特別支援学校高等部学習指導要領 平成 31 年 2 月告示

* (1) ~ (4) の資料は文部科学省ホームページで PDF 版あり。

<文部科学省ホームページURL>

https://www.mext.go.jp/a_menu/shotou/tokubetu/main/1386427.htm

(5) 文部科学省 著作 (2018) 特別支援学校教育要領・学習指導要領解説自立活動編 (幼稚部・小学部・中学部) 開隆堂出版 ISBN コード : 9784304042317

* 本資料は、文部科学省ホームページに PDF 版あり

<文部科学省ホームページURL>

https://www.mext.go.jp/a_menu/shotou/tokubetu/main/1386427.htm

(6) 文部科学省初等中等教育局特別支援教育課 (2021) 障害のある子供の教育支援の手引
～子供たち一人一人の教育的ニーズを踏まえた学びの充実に向けて～

<文部科学省ホームページURL>

https://www.mext.go.jp/a_menu/shotou/tokubetu/material/1340250_00001.htm

(7) 日本音響学会 編『音のなんでも小事典』 講談社 ISBN コード : 9784062571500

(8) 中村 健太郎『図解雑学・音のしくみ』 ナツメ出版企画 ISBN コード : 9784816339172

(9) 小寺 一興『補聴器フィッティングの考え方』 診断と治療社

ISBN コード : 9784787818102

(10) 日本聴覚医学会 編『聴覚検査の実際(第4版)』 南山堂

ISBN コード : 9784525370442

(11) 脇中 起余子『聴覚障害教育 これまでとこれからーコミュニケーション論争 9 歳の壁・障害認識を中心にー』 北大路書房 ISBN コード : 9784762826900

(13) 四日市 章 編著『リテラシーと聴覚障害』 コレール社

ISBNコード : 9784876377114

学生に対する評価

レポート評価 (50%)、科目修得試験 (50%) の割合で総合して評価する

授業科目名： 知的障害の心理・生理・病理	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 2 単位	担当教員名： 伊藤 一美
			担当形態： 単独
科 目	特別支援教育領域に関する科目		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	心身に障害のある幼児、児童又は生徒の心理、生理及び病理に関する科目 (中心領域：知)		
授業のテーマ及び到達目標 本授業では、令和の日本型学校教育が目指す学校教育の方向性を踏まえ、インクルーシブ教育の概念および特別支援教育のシステムを理解し、知的障害(知的発達症)とその他の発達障害(知的発達症)の定義、心理・行動特徴を理解するとともに、知的障害(知的発達症)の心理、生理、病理の理解を深めることを目指す。			
授業の概要 テキスト、特別支援学校学習指導要領、文部科学省報告等に基づき、以下について学修する。 (1) 発達障害の概念を理解し、知的障害(知的発達症)の定義の心理・行動特徴および生理・病理を理解する。 (2) 知的障害(知的発達症)以外の発達障害の心理・行動特徴について理解する。 (3) 特別支援教育の成立史およびインクルーシブ教育の概念を理解する。			
授業計画 第1回：インクルーシブ教育の概念と特別支援教育 第2回：知的障害の定義 第3回：知的障害の心理 第4回：知的障害の生理・病理 第5回：知的障害の感覚機能 視覚機能と聴覚機能 第6回：知的障害の注意・記憶 第7回：知的障害の学習 第8回：知的障害の運動機能 第9回：知的障害の言語・コミュニケーション 第10回：知的障害と健康 第11回：その他の発達障害① LD(限局性学習症) 第12回：その他の発達障害② ADHD(注意欠如多動症) 第13回：その他の発達障害③ ASD(自閉スペクトラム症) 第14回：その他の発達障害④ 発達性協調運動症 第15回：家庭や医療機関との連携 定期試験			
テキスト (1) 勝二 博亮(著, 編集), 細川 美由紀(著), 軍司 敦子(著), 田原 敬(著), 青木 真純(著), 日高 茂暢(著), 鈴木 浩太(著), 久保 愛恵(著)(2022)『知的障害児の心理・生理・病理: エビデンスに基づく特別支援教育のために』北大路書房 ISBN-10:4762831883 ISBN-13:978-4762831881			
参考書・参考資料等 (1) 特別支援学校小学部・中学部学習指導要領 平成 29 年告示 (2) 特別支援学校小学部・中学部学習指導要領解説総則編 (幼稚部・小学部・中学部) 平成 30 年 3 月 (3) 特別支援学校小学部・中学部学習指導要領解説各教科編 (小学部・中学部) 平成 30 年 3 月 (4) 特別支援学校高等部学習指導要領 平成 31 年 2 月告示			

* (1) ～ (4) の資料は文部科学省ホームページで PDF 版あり。各自の基礎免許状
学校種に合わせて選択して活用すること。

<文部科学省ホームページURL>

https://www.mext.go.jp/a_menu/shotou/tokubetu/main/1386427.htm

- (5) 文部科学省初等中等教育局特別支援教育課 (2021) 障害のある子供の教育支援の手引
～子供たち一人一人の教育的ニーズを踏まえた学びの充実に向けて～

https://www.mext.go.jp/a_menu/shotou/tokubetu/material/1340250_00001.htm

- (6) 中央教育審議会(2021)「令和の日本型学校教育」の構築を目指して～全ての子供たちの
可能性を引き出す、個別最適な学びと、協働的な学びの実現～ (答申) 文部科学省 (中
教審第 228 号) https://www.mext.go.jp/content/20210126-mxt_syoto02-000012321_2-4.pdf

- (7) 文部科学省(2023)「特別支援教育を担う教師の養成の在り方等に関する検討会議報告」

https://www.mext.go.jp/b_menu/shingi/chousa/shotou/173/mext_00031.html

- (8) 中央教育審議会(2023)「令和の日本型学校教育」を担う教師の養成・採用・研修等の在
り方について～「新たな教師の学びの姿」の実現と、多様な専門性を有する質の高い教
職員集団の形成～ (答申) 文部科学省 (中教審第 240 号)

[https://www.mext.go.jp/b_menu/shingi/chukyo/chukyo3/079/sonota/1412985_00004.h
tm](https://www.mext.go.jp/b_menu/shingi/chukyo/chukyo3/079/sonota/1412985_00004.htm)

学生に対する評価

レポート評価 (50%)、科目修得試験 (50%) の割合で総合して評価する

授業科目名： 肢体不自由の心理・生理・病理		教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 2 単位	担当教員名： 徳永 亜希雄
				担当形態： 単独
科 目		特別支援教育領域に関する科目		
施行規則に定める 科目区分又は事項等		心身に障害のある幼児、児童又は生徒の心理、生理及び病理に関する科目 (中心領域：肢)		
授業のテーマ及び到達目標				
肢体不自由のある幼児児童生徒にかかわる上で必要となる起因疾患に関する心理・生理・病理についての特徴とそれらの相互作用に関する知識、及び感覚機能の発達、知能の発達、認知の特性を理解する。併せて、家庭や医療機関等との連携についても理解し、それらに基づいて教育的かかわりに必要な技能及び態度を身につけ、実践を観察する上でその意図や背景を理解する。到達目標は、①肢体不自由の起因疾患となる病理面と心理面及び生理面の特徴並びにそれらの相互作用、②肢体不自由の状態や感覚機能の発達、知能の発達及び認知の特性、③家庭や医療機関との連携の重要性、についてそれぞれ理解し、説明できるようになることである。				
授業の概要				
肢体不自由のある幼児児童生徒の教育実践のためには、肢体不自由児・者の心理・生理・病理の特徴について理解しておく必要がある。そのために本授業では、まず医学的な観点や学校教育の観点から肢体不自由の定義について学修する。次に、運動機能や神経系、骨・筋の仕組み、運動機能や感覚機能、知能の発達及び認知特性について学修する。最後に、それらの理解の上で、肢体不自由児の心理についていくつかの観点から学修を深めるとともに、家庭や医療機関との連携の重要性について学修を深める。				
授業計画				
第 1 回：肢体不自由とは①—医学的な観点からの理解—				
第 2 回：肢体不自由とは②—学校教育の観点からの理解—				
第 3 回：肢体不自由児の生理・病理①—運動機能と神経系の仕組み—				
第 4 回：肢体不自由児の生理・病理②—骨・筋の仕組みと運動機能・感覚機能の発達—				
第 5 回：肢体不自由の主な起因疾患の特徴と配慮事項①—脳原性の疾患—				
第 6 回：肢体不自由の主な起因疾患の特徴と配慮事項②—筋原性の疾患—				
第 7 回：肢体不自由の主な起因疾患の特徴と配慮事項③—脊椎脊髄性、末梢神経の疾患—				
第 8 回：肢体不自由の主な起因疾患の特徴と配慮事項④—骨系統の疾患—				
第 9 回：肢体不自由児の心理①—発達の全体的理解—				
第 1 0 回：肢体不自由児の心理②—認知・思考の発達と特性—				
第 1 1 回：肢体不自由児の心理③—肢体不自由が発達に与える影響—				

第12回：肢体不自由児の心理④—知覚及び知能の発達と特性—

第13回：肢体不自由児の心理⑤—行動特性とパーソナリティー—

第14回：肢体不自由児・者の心理⑥—障害受容と肢体不自由児・者への態度—

第15回：肢体不自由児を支える家庭や医療機関との連携

定期試験

テキスト

(1) 杉野学・長沼俊夫・徳永亜希雄 編著『特別支援教育の基礎』大学図書出版 2018 年
ISBN コード 9784907166892

(2) 川間健之介・長沼俊夫 編著 『新訂 肢体不自由児の教育』放送大学教育振興会
2022 年 ISBN コード 9784595321719

参考書・参考資料等

(1) 特別支援学校小学部・中学部学習指導要領 平成 29 年告示

(2) 特別支援学校小学部・中学部学習指導要領解説総則編（幼稚部・小学部・中学部）平成
30 年 3 月

(3) 特別支援学校小学部・中学部学習指導要領解説各教科編（小学部・中学部）平成 30 年
3 月

(4) 特別支援学校高等部学習指導要領 平成 31 年 2 月告示

* (1) ～ (4) の資料は文部科学省ホームページで PDF 版あり。各自の基礎免許状学校種に合わせて選択して活用すること。

<文部科学省ホームページURL>

https://www.mext.go.jp/a_menu/shotou/tokubetu/main/1386427.htm

(5) 文部科学省初等中等教育局特別支援教育課（2021）障害のある子供の教育支援の手引
～子供たち一人一人の教育的ニーズを踏まえた学びの充実に向けて～

<文部科学省ホームページURL>

https://www.mext.go.jp/a_menu/shotou/tokubetu/material/1340250_00001.htm

学生に対する評価

レポート評価（50%）、科目修得試験（50%）の割合で総合して評価する

授業科目名： 病弱の心理・生理・病理	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 2単位	担当教員名： 南風野 久子
			担当形態： 単独
科 目	特別支援教育領域に関する科目		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	心身に障害のある幼児、児童又は生徒の心理、生理及び病理に関する科目 (中心領域：病)		
授業のテーマ及び到達目標			
病弱児の疾病の種類、原因そして程度は、複雑多岐にわたり一人ひとりの示す病状や性格、行動上の問題も極めて複雑であるが、身体的症状として認められている疾病や障害の中には心理的原因に由来しているものは少なくない。彼らは医療的制限が加えられていることから、心のあせり、情緒的不安定あるいは心理的葛藤などが生じてくることが予想されるからである。病弱児の心理を中心に病理面と生理面の特徴とそれらの相互作用について理解していく。併せて家庭や学校間、医療、福祉及び保健機関との連携についても理解していく。			
授業の概要			
関係法規や学習指導要領に示されている規定を踏まえながら、以下のことについて学んでいく。 (1) 病弱・身体虚弱児の心理・生理・病理を理解するに当たって、個々の疾患に関する基礎知識を理解する。 (2) 病弱児の置かれている環境(家庭、学校、医療施設など)について理解する。 (3) 病弱児が示す不適応行動は、適切な指導や治療によって改善が期待できることを理解する。			
授業計画			
第1回：病弱・身体虚弱とその分類			
第2回：用語および定義、分類			
第3回：病虚弱児教育の対象			
第4回：心理的特性 ①身体的条件、②適応と欲求不満、③両親の態度			
第5回：生理的特性			
第6回：病理的特性			
第7回：知能と性格行動			
第8回：学習上の問題 ①学習空白、②身体活動の制限			
第9回：学習上の配慮			
第10回：パーソナリティーの形成 ①関係する要因			
第11回：パーソナリティーの形成 ②心理的援助			

第12回：社会性の発達 ①親の養育態度

第13回：社会性の発達 ②マタernal・デプリベーション

第14回：重症心身障害児の心理的特性（コミュニケーション、行動、発達など）

第15回：家庭や学校間、医療・福祉・保健機関との連携

定期試験

テキスト

（1）独立行政法人 国立特別支援教育総合研究所 特別支援教育の基礎・基本2020
ジアース教育新社 ISBNコード：9784863786154

（2）文部科学省 著作（2018）特別支援学校教育要領・学習指導要領解説自立活動編（幼稚園・小学部・中学部） 開隆堂出版 ISBNコード：9784304042317

参考書・参考資料等

（1）全国特別支援学校病弱教育校長会 病気の子どものための教育必携―特別支援学校学習指導要領等を踏まえた ジアース教育新社 ISBNコード：9784863715202

（2）日本育療学会 標準『病弱児の教育』テキスト ジアース教育新社
ISBNコード：9784863714939

（3）文部科学省初等中等教育局特別支援教育課（2021）障害のある子供の教育支援の手引
～子供たち一人一人の教育的ニーズを踏まえた学びの充実に向けて～
<文部科学省ホームページURL>
https://www.mext.go.jp/a_menu/shotou/tokubetu/material/1340250_00001.htm

学生に対する評価

レポート評価（50%）、科目修得試験（50%）の割合で総合して評価する

授業科目名： 視覚障害教育指導法Ⅰ	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 2単位	担当教員名： 石川 大
			担当形態： 単独
科 目	特別支援教育領域に関する科目		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	心身に障害のある幼児、児童又は生徒の教育課程及び指導法に関する科目 (中心領域：視)		
<p>授業のテーマ及び到達目標</p> <ul style="list-style-type: none"> ・特別支援学校（視覚障害）における教育課程の意義や編成の方法及びカリキュラム・マネジメントについて理解する。 ・視覚障害のある幼児、児童生徒の障害の状態や特性及び心身の発達の段階等を踏まえた各教科等の指導における配慮事項について理解し、具体的な授業場面を想定した授業設計を行う方法を身に付ける。 <p>(1) 視覚障害に起因する学習上又は生活上の困難を改善・克服する力を育むことを目指すために教育課程を編成することについて理解している。</p> <p>(2) 幼児、児童生徒の実態に応じた個別の指導計画を作成するとともに、実施、評価、改善から教育課程の改善につなげるカリキュラム・マネジメントについて理解している。</p> <p>(3) 視覚障害の状態や特性及び心身の発達の段階等を踏まえ、各教科等に必要で確かな概念の形成を図り、言葉を正しく理解し活用できるようにするために、聴覚、触覚及び保有する視覚を活用した具体的な学習活動について理解している。</p> <p>(4) 視覚障害の状態や特性及び心身の発達の段階等を踏まえ、環境を整えることを通して空間や時間の概念を養い、見通をもって意欲的な学習活動を展開することを理解している。</p> <p>(5) 主体的な学習ができるようにするために、視覚補助具やICT及び触覚教材、拡大教材及び音声教材の活用について理解している。</p>			
<p>授業の概要</p> <p>学習指導要領や関係法令に示されている規定を踏まえながら、視覚障害のある幼児・児童生徒のための教育課程の意義及び編成の原則について理解するとともに、視覚障害児に対する指導内容・方法の実際について学ぶ。また、各教科と自立活動との関連を図った授業の在り方及び個別の指導計画の作成と内容の取扱について理解を深める。</p>			
<p>授業計画</p> <p>第1回：視覚障害教育の現状と課題</p> <p>第2回：視覚障害のある児童生徒の教育と就学支援</p> <p>第3回：特別支援教育と視覚障害教育</p> <p>第4回：教育課程の意義と基準</p>			

第5回：教育課程編成の原則

第6回：カリキュラム・マネジメントの充実

第7回：盲児に対する指導内容・方法（1）点字指導

第8回：盲児に対する指導内容・方法（2）歩行指導

第9回：弱視児に対する指導内容・方法

第10回：自立活動の基本と指導

第11回：教科と自立活動との関係

第12回：個別の指導計画及び学習指導案の作成

第13回：個別の指導計画及び授業の実施、評価、改善

第14回：視覚障害のある児童生徒に対する自立活動の指導

第15回：視覚障害のある児童生徒のための教材・教具

定期試験

テキスト

（1）特別支援学校小学部・中学部学習指導要領解説総則編（幼稚部・小学部・中学部）

平成30年3月

（2）香川邦生 編著『視覚障害教育に携わる方のために（五訂版）』 慶應義塾大学出版会

ISBNコード：9784766423679

参考書・参考資料等

（1）特別支援学校小学部・中学部学習指導要領 平成29年告示

（2）特別支援学校小学部・中学部学習指導要領解説各教科編（小学部・中学部）

平成30年3月

（3）特別支援学校高等部学習指導要領 平成31年2月告示

（4）文部科学省 著作（2018）特別支援学校教育要領・学習指導要領解説自立活動編（幼稚部・小学部・中学部） 開隆堂出版 ISBNコード：9784304042317

<文部科学省ホームページURL>

https://www.mext.go.jp/a_menu/shotou/tokubetu/main/1386427.htm

（5）香川邦生・千田耕基 編著『小・中学校における視力の弱い子どもの学習支援』

教育出版 ISBNコード：9784316802701

（6）文部科学省初等中等教育局特別支援教育課（2021）障害のある子供の教育支援の手引
～子供たち一人一人の教育的ニーズを踏まえた学びの充実に向けて～

<文部科学省ホームページURL>

https://www.mext.go.jp/a_menu/shotou/tokubetu/material/1340250_00001.htm

学生に対する評価

レポート評価（50％）、科目修得試験（50％）の割合で総合評価する

授業科目名： 視覚障害教育指導法Ⅱ	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 2単位	担当教員名： 澤田 真弓 担当形態： 単独
科 目	特別支援教育領域に関する科目		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	心身に障害のある幼児、児童又は生徒の教育課程及び指導法に関する科目 (中心領域：視)		
授業のテーマ及び到達目標			
<p>(1) 視覚障害のある児童生徒等の学校教育をめぐる状況や課題について、さまざまな教育制度の動向を踏まえて説明することができる。</p> <p>(2) 視覚障害教育の本質について論理的に説明することができる。</p> <p>(3) 視覚障害教育における自立活動の目標や内容の設定、指導の実際等について説明することができる。</p> <p>(4) 視覚障害のある児童生徒等の指導の工夫や配慮点について、具体的に説明することができる(視覚障害のある重複障害児童生徒等の指導も含む)。</p>			
授業の概要			
テキストや学習指導要領に示されている規定を踏まえながら、視覚障害のある児童生徒等の発達段階に応じた指導や教材教具の工夫、配慮点について学ぶ。また、職業や福祉制度等にも触れる。			
授業計画			
第1回：視覚障害教育の変遷			
第2回：視覚障害とは			
第3回：視覚障害のある児童生徒の就学先決定の仕組み			
第4回：それぞれの学びの場と教育課程			
第5回：各教科等の指導の工夫・学習指導書の作成・授業改善			
第6回：視覚障害教育における教材・教具			
第7回：視覚障害教育における自立活動の基本と指導①(自立活動とは)			
第8回：視覚障害教育における自立活動の基本と指導②(レンズ等補助具の指導)			
第9回：点字指導の基本と実際			
第10回：歩行指導の基本と実際			
第11回：視覚障害教育における情報機器の活用			
第12回：視覚障害のある重複障害児の指導			
第13回：盲ろうの子どもたちの理解と指導			

<p>第14回：乳幼児期における指導</p> <p>第15回：視覚障害に係わる職業と福祉制度</p> <p>定期試験</p>
<p>テキスト</p> <p>小林秀之・澤田真弓編著『特別支援教育のエッセンス 視覚障害教育の基本と実践』 慶應義塾大学出版会 ISBNコード：978-4-7664-2861-2</p>
<p>参考書・参考資料等</p> <p>(1) 特別支援学校幼稚部教育要領 小学部・中学部学習指導要領 平成29年4月告示</p> <p>(2) 特別支援学校教育要領・学習指導要領解説 総則編（幼稚部・小学部・中学部） 平成30年3月</p> <p>(3) 特別支援学校学習指導要領解説 各教科等編（小学部・中学部） 平成30年3月</p> <p>(4) 特別支援学校教育要領・学習指導要領解説 自立活動編（幼稚部・小学部・中学部） 平成30年3月</p> <p>(5) 特別支援学校高等部学習指導要領 平成31年2月告示 *（1）～（5）の資料は文部科学省ホームページでPDF版あり。 <文部科学省ホームページURL> https://www.mext.go.jp/a_menu/shotou/tokubetu/main/1386427.htm</p> <p>(6) 独立行政法人国立特別支援教育総合研究所 『特別支援教育の基礎・基本 2020』 ジアース教育新社 ISBNコード：978-4-86371-548-6</p> <p>(7) 香川邦生・千田耕基 編著『小・中学校における視力の弱い子どもの学習支援』 教育出版 ISBNコード：978-4-316-80270-1</p> <p>(8) 文部科学省初等中等教育局特別支援教育課 『障害のある子供の教育支援の手引 ～子供たち一人一人の教育的ニーズを踏まえた学びの充実に向けて～』 <文部科学省ホームページURL> https://www.mext.go.jp/a_menu/shotou/tokubetu/material/1340250_00001.htm</p>
<p>学生に対する評価</p> <p>レポート評価（25％）、スクーリング評価（25％）、科目修得試験（50％）の割合で総合評価する。</p>

授業科目名： 聴覚障害教育指導法 Ⅰ	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 2 単位	担当教員名： 宍戸 和成
			担当形態： 単独
科 目	特別支援教育領域に関する科目		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	心身に障害のある幼児、児童又は生徒の教育課程及び指導法に関する科目 (中心領域：聴)		
授業のテーマ及び到達目標			
特別支援教育においては、それぞれの障害や個人の実態等に応じた指導がより一層重視されている。本授業では聴覚障害の特性、聴覚障害のある子どもの発達や、教育システムについて学習することをねらいとする。本授業の受講によって、より専門的な内容を理解する上での、聴覚障害や聴覚障害教育に関する基礎的事項を学ぶことが期待される。学生には、基本的知識に加え、聴覚障害児の自立を促すための教育や支援の在り方について、その現状や課題への関心を高め、主体的に学ぶきっかけとしたい。			
授業の概要			
本授業では、聴覚障害とはどのような障害かという点について、聞こえの状態、発達上の特徴や課題について学ぶとともに、聴覚障害特別支援学校（聾学校）や難聴特別支援学級、通級指導教室（聞こえの教室）といった各教育機関の役割や教育・指導上の特徴について講義を通じて学習する。また、教育課程における自立活動や教科指導等を中心に、その教育理念や方法を巡る今日的課題についても学習する。			
授業計画			
第1回： 聴覚障害とは ー音の特性と聞こえの仕組みー			
第2回： 聴覚障害とは ー聞こえにくさの要因とその特徴ー			
第3回： 聴覚障害とは ー発達段階に応じた聞こえにくさの影響ー			
第4回： 聴覚障害教育の歴史と理念① ー聾学校の役割と教育内容ー			
第5回： 聴覚障害教育の歴史と理念② ー特別支援学級(特殊学級)と通級による指導ー			
第6回： 児童福祉施設と聾学校等との連携協力 ー乳幼児期と学童期ー			
第7回： 聴覚障害教育における教育課程の意義と方法 ー学習指導要領等の変遷と現状ー			
第8回： 聴覚障害の子どもの発達課題と指導・支援 ー認知・知的発達と支援ー			
第9回： 聴覚障害の子どもの発達課題と指導・支援 ー言語・コミュニケーションの発達と支援ー			
第10回： 聴覚障害の子どもの発達課題と指導・支援 ー読み書き能力の発達と支援ー			
第11回： 聴覚障害の子どもの発達課題と指導・支援 ー対人関係・社会性の発達と支援ー			
第12回： 聴覚障害の子どもへの早期からの教育的対応			
第13回： 聴覚障害の子どもへの後期中等教育 ー情報保障と社会自立ー			
第14回： 聴覚障害教育とインクルーシブ教育システム			
第15回： 聴覚障害教育における今日的課題 ー特に、指導法の探求をー			
定期試験			
テキスト			
(1) 宍戸和成/原田公人 (2023) 「聴覚障害教育の基本と実践」慶應義塾大学出版会			
参考書・参考資料等			
(1) 特別支援学校小学部・中学部学習指導要領 平成 29 年告示			
(2) 特別支援学校小学部・中学部学習指導要領解説総則編 (幼稚部・小学部・中学部) 平成 30 年 3 月			
(3) 特別支援学校小学部・中学部学習指導要領解説各教科編 (小学部・中学部) 平成 30 年 3 月			
(4) 特別支援学校高等部学習指導要領 平成 31 年 2 月告示			
＊ (1) ～ (4) の資料は文部科学省ホームページで PDF 版あり。			

<文部科学省ホームページURL>

https://www.mext.go.jp/a_menu/shotou/tokubetu/main/1386427.htm

- (5) 文部科学省 著作 (2018) 特別支援学校教育要領・学習指導要領解説自立活動編 (幼稚園・小学部・中学部) 開隆堂出版 ISBNコード: 9784304042317

*本資料は、文部科学省ホームページにPDF版あり

<文部科学省ホームページURL>

https://www.mext.go.jp/a_menu/shotou/tokubetu/main/1386427.htm

- (6) 文部科学省初等中等教育局特別支援教育課 (2021) 障害のある子供の教育支援の手引
～子供たち一人一人の教育的ニーズを踏まえた学びの充実に向けて～

<文部科学省ホームページURL>

https://www.mext.go.jp/a_menu/shotou/tokubetu/material/1340250_00001.htm

- (7) 日本音響学会 編『音のなんでも小事典』 講談社 ISBNコード: 9784062571500

- (8) 中村 健太郎『図解雑学・音のしくみ』 ナツメ出版企画

ISBNコード: 9784816339172

- (9) 鈴木 淳一・小林 武夫『耳科学一難聴に挑む』 中公新書

ISBNコード: 9784121015983

- (10) 小寺 一興『補聴器フィッティングの考え方』 診断と治療社

ISBNコード: 9784787818102

- (11) 日本聴覚医学会 編『聴覚検査の実際(第4版)』 南山堂

ISBNコード: 9784525370442

- (12) 斉藤 くるみ『少数言語としての手話』 東京大学出版会

ISBNコード: 9784130830478

- (13) 長南 浩人 編著『手話の心理学入門』 東峰書房 ISBNコード: 9784885920660

- (14) 脇中 起余子『聴覚障害教育 これまでとこれからーコミュニケーション論争 9歳の壁・障害認識を中心にー』 北大路書房 ISBNコード: 9784762826900

- (15) 我妻 敏博『聴覚障害児の言語指導～実践のための基礎知識～』 田研出版

ISBNコード: 9784860890346

- (16) 四日市 章 編著『リテラシーと聴覚障害』 コレール社

ISBNコード: 9784876377114

学生に対する評価

レポート評価 (25%)、スクーリング評価 (25%)、科目修得試験 (50%) の割合で総合評価する

授業科目名： 聴覚障害教育指導法Ⅱ	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 2 単位	担当教員名： 宍戸 和成
			担当形態： 単独
科 目	特別支援教育領域に関する科目		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	心身に障害のある幼児、児童又は生徒の教育課程及び指導法に関する科目 (中心領域：聴)		
授業のテーマ及び到達目標 本授業では、聴覚障害児の自立活動の位置づけと内容、また実際の指導・学習の内容について基本的な事項を理解する。また教育の現代的な課題を知る。			
授業の概要 本授業では、聴覚障害のある子どもの教育の歴史や制度、そのシステム、教育課程の変遷、聴覚障害に併せている障害等のある子どものコミュニケーション、心理・生理・行動・学習、等について概説する中で、主として、聴覚障害のある子どもの自立活動に焦点を当て、その意義、目的、内容、方法、指導計画等の実際について学習する。			
授業計画 第1回： 子どもの言語発達について 第2回： 聴覚障害教育における言語指導について ーコミュニケーションを活用してー 第3回： 聴覚障害教育における言語指導について ー聴覚活用と発音・発語指導ー 第4回： 聴覚障害教育における言語指導について ー多様なコミュニケーション方法を用いてー 第5回： 聴覚障害教育における各教科等の指導の実際 ー学習指導案の作成・授業実践・授業改善ー 第6回： ICT の活用と教材の発見 第7回： 特別支援学級と通級による指導の実際 第8回： 養護・訓練から自立活動へ 第9回： カリキュラム・マネジメントと教育課程の評価・改善 第10回： 幼稚園における自立活動の指導 ー家庭との連携も含めてー 第11回： 小学部等における自立活動の指導 ー日本語の習得と自己理解ー 第12回： 中学部・高等部等における自立活動の指導 ー障害の認識と意欲の喚起ー 第13回： 各教科等の指導と自立活動の指導の関連 第14回： 聴覚障害教育における自立活動の指導の実際 第15回： 聴覚障害教育における個に応じた指導の追求 定期試験			
テキスト 宍戸和成/原田公人（2023）「聴覚障害教育の基本と実践」慶應義塾大学出版会 文部科学省 著作（2018）特別支援学校教育要領・学習指導要領解説自立活動編（幼稚園・小学部・中学部） 開隆堂出版 ISBNコード：9784304042317 ＊本資料は、文部科学省ホームページにPDF版あり ＜文部科学省ホームページURL＞ https://www.mext.go.jp/a_menu/shotou/tokubetu/main/1386427.htm			
参考書・参考資料等 （1）特別支援学校小学部・中学部学習指導要領 平成29年告示 （2）特別支援学校小学部・中学部学習指導要領解説総則編（幼稚園・小学部・中学部）平成30年3月 （3）特別支援学校小学部・中学部学習指導要領解説各教科編（小学部・中学部）平成30年3月 （4）特別支援学校高等部学習指導要領 平成31年2月告示			

<p>* (1) ～ (4) の資料は文部科学省ホームページで PDF 版あり。</p> <p>< 文部科学省ホームページ URL ></p> <p>https://www.mext.go.jp/a_menu/shotou/tokubetu/main/1386427.htm</p> <p>(5) 文部科学省初等中等教育局特別支援教育課 (2021) 障害のある子供の教育支援の手引 ～子供たち一人一人の教育的ニーズを踏まえた学びの充実に向けて～</p> <p>< 文部科学省ホームページ URL ></p> <p>https://www.mext.go.jp/a_menu/shotou/tokubetu/material/1340250_00001.htm</p> <p>(6) 日本音響学会 編『音のなんでも小事典』 講談社 ISBN コード : 9784062571500</p> <p>(7) 中村 健太郎『図解雑学・音のしくみ』 ナツメ出版企画 ISBN コード : 9784816339172</p> <p>(8) 鈴木 淳一・小林 武夫『耳科学―難聴に挑む―』 中公新書 ISBN コード : 9784121015983</p> <p>(9) 小寺 一興『補聴器フィッティングの考え方』 診断と治療社 ISBN コード : 9784787818102</p> <p>(10) 日本聴覚医学会 編『聴覚検査の実際(第4版)』 南山堂 ISBN コード : 9784525370442</p> <p>(11) 齊藤 くるみ『少数言語としての手話』 東京大学出版会 ISBN コード : 9784130830478</p> <p>(12) 長南 浩人 編著『手話の心理学入門』 東峰書房 ISBN コード : 9784885920660</p> <p>(13) 脇中 起余子『聴覚障害教育 これまでとこれから―コミュニケーション論争 9歳の壁・障害認識を中心に―』 北大路書房 ISBN コード : 9784762826900</p> <p>(14) 我妻 敏博『聴覚障害児の言語指導～実践のための基礎知識～』 田研出版 ISBN コード : 9784860890346</p> <p>(15) 四日市 章 編著『リテラシーと聴覚障害』 コレール社 ISBN コード : 9784876377114</p>	<p>学生に対する評価</p> <p>レポート評価 (25%)、スクーリング評価 (25%)、科目修得試験 (50%) の割合で総合評価する</p>
--	--

授業科目名： 知的障害教育指導法	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 2単位	担当教員名： 西永 堅
			担当形態： 単独
科 目	特別支援教育領域に関する科目		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	心身に障害のある幼児、児童又は生徒の教育課程及び指導法に関する科目 (中心領域：知)		
授業のテーマ及び到達目標			
<p>関係法規や学習指導要領に示されている規定を踏まえながら、以下のことについて学んでいく。</p> <p>(1) 知的障害児・者の支援方法として、応用行動分析の原理を理解する。</p> <p>(2) 教育課程の編成を説明できる。</p> <p>(3) 自立活動の指導の意義と指導プロセスについて学ぶ。</p> <p>(4) 教育課程の評価と改善につなげることについて、カリキュラム・マネジメントの側面の一つとして理解したうえで、具体的な個別の指導計画、学習指導案が作成できる。</p> <p>(5) 応用行動分析は、けっして問題行動だけに有効なのではなく、言葉の発達、認知発達、教科学習においても有効であることを理解する。</p>			
授業の概要			
<p>そもそも支援とは何であろうか？ニーズにある方や子どもに対して、やみくもに援助したり介助したりすることが本来の支援ではなく、本人主体であり、かつ、長期的な視点をもった系統立てた支援が重要になるであろう。本授業では心理学の一体系である行動分析学の中で、発達障害等のニーズがある子ども・人たちの支援を研究してきた応用行動分析（ABA）の原理を用いた支援方法を学習したい。その中で、個別の指導計画の作成、ならびに、個別の教育支援計画の作成等、知的障害児・者を対象としたカリキュラム・教育課程の編成を学ぶ。併せて自立活動の指導、教材・教具の工夫、特別支援教育の動向を理解する。</p> <p>応用行動分析とは、現在と過去の環境と個人との相互作用のあり方を中心に科学的証拠をもとに進めていく考え方(エビデンス・ベースド・アプローチ)である。そして、応用行動分析では、子どもたちの行動の直接的な原因を障害によるものとして考えるのではなく、その行動が起きる直前と直後の働きかけを分析することによって、好ましくない行動は減少させ、好ましい行動は増加することを目指している。つまり、ADHD と診断された子どもが、授業中高頻度で離席行動をするとき、その直接的な原因を ADHD だからとするのではなく、離席行動の直前・直後の環境に着目するのである。なぜならば、ADHD と診断された子どもは、かならずどの時間でも同頻度に離席行動が起こることはないからである。このように障害を直接な原因としない応用行動分析的アプローチは、どのような障害に対しても、また障害以外に対しても適応できる</p>			

ユニバーサルな原理であることを理解していただきたい。

応用行動分析学は非常に誤解されていることが多い。たとえば、応用行動分析学は、問題行動を減らすときに使われるための行動療法である、罰を容認しているなどである。この授業を通して、正しい理解を促していくことがこの授業の目的・ねらいである。

ABC分析を理解することによって、応用行動分析の原理を学び、それを子どもたちの発達の支援に活かしていく。具体的には、問題行動を減らそうとするのではなく、問題行動の代わりとなる適切な行動を増やしていける指導計画を作成できるように学修していく。

授業計画

- 第1回：発達障害や認知発達について：知的障害を含む発達障害とその認知発達について
 第2回：さまざまなスキルについて：スキルとは
 第3回：さまざまなスキルについて：ソーシャルスキル・コミュニケーションスキルについて
 第4回：さまざまなスキルについて：アカデミックスキルとは
 第5回：応用行動分析の視点を学ぶ：行動とは（個人と環境の相互作用）
 第6回：応用行動分析の視点を学ぶ：ポータープログラムとは
 第7回：応用行動分析の視点を学ぶ：問題行動への対処・ポジティブ行動支援について
 第8回：教育課程の編成：知的障害教育の特徴について
 第9回：カリキュラム・マネジメント：知的障害教育におけるカリキュラム・マネジメント
 第10回：個別の指導計画とは
 第11回：自立活動とは
 第12回：自立活動の個別の指導計画の作成と内容の取扱い
 第13回：ソーシャルスキルトレーニングの計画と実践
 第14回：読み、書き、計算への応用行動分析のアプローチ
 第15回：各教科等を合わせた指導と学習指導案の作成、授業改善の方法
- 定期試験

テキスト

- (1) 西永堅(2021) 子どもの発達障害とソーシャルスキルトレーニングのコツがわかる本
ソシム ISBNコード：978-4802612937
- (2) 特別支援学校小学部・中学部学習指導要領 平成29年告示
- (3) 特別支援学校小学部・中学部学習指導要領解説総則編（幼稚部・小学部・中学部）平成30年3月
- (4) 文部科学省 著作（2018）特別支援学校教育要領・学習指導要領解説自立活動編（幼稚部・小学部・中学部） 開隆堂出版 ISBNコード：9784304042317

参考書・参考資料等

- (1) 山本 淳一・池田 聡子『応用行動分析で特別支援教育が変わる』図書文化社 2005 年
- (2) 杉山 尚子、島宗理、佐藤方哉、リチャード・W・マロット、アリア・E・マロット（19

98) 『行動分析学入門』 産業図書

(3) 杉山 尚子 (2005) 『行動分析学入門』 集英社新書

(4) 文部科学省初等中等教育局特別支援教育課 (2021) 障害のある子供の教育支援の手引
～子供たち一人一人の教育的ニーズを踏まえた学びの充実に向けて～ <
文部科学省ホームページURL>

https://www.mext.go.jp/a_menu/shotou/tokubetu/material/1340250_00001.htm

学生に対する評価

レポート評価 (50%)、科目修得試験 (50%) の割合で総合して評価する

授業科目名： 肢体不自由教育指導法	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 2単位	担当教員名： 伊藤 甲之介
			担当形態： 単独
科 目	特別支援教育領域に関する科目		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	心身に障害のある幼児、児童又は生徒の教育課程及び指導法に関する科目 (中心領域：肢)		
授業のテーマ及び到達目標			
肢体不自由のある児童生徒（以下、肢体不自由児という）の状態の理解及びその状態や特性及び発達段階等を踏まえた各教科等の指導方法や配慮事項など関連した事項について理解することにより、肢体不自由児の教育課程の編成やカリキュラム・マネジメントの考え方など学校教育における指導や支援全般にわたる知識の理解と態度の育成を図ることを目標とする。			
授業の概要			
関係法規や学習指導要領等を踏まえながら、以下のことについて学ぶ。 (１) 肢体不自由児の教育における教育課程の編成等及び関連事項について学ぶ (２) 肢体不自由の障害特性及び発達に段階等を踏まえた各教科等の指導について学ぶ (３) 自立活動の指導の意義と指導プロセスについて学ぶ			
授業計画			
第１回：肢体不自由児の障害特性の理解と教育課程の意義			
第２回：肢体不自由の状態等に応じた教育内容の選択と配列について			
第３回：各教科等の指導に関する教育課程の編成と配慮事項とカリキュラム・マネジメント			
第４回：肢体不自由児の障害特性を踏まえた各教科等の指導の手立て・配慮の工夫①			
第５回：肢体不自由児の障害特性を踏まえた各教科等の指導の手立て・配慮の工夫② ＊①②で複数の各教科等について考えること			
第６回：個別の指導計画の作成と内容の取扱い			
第７回：知的障害を併せ有する児童生徒の指導の特徴と各教科等の指導の手立て・配慮の工夫			
第８回：障害が重度な肢体不自由児の教育課程と考え方			
第９回：自立活動の指導の意義と指導の基本			
第１０回：自立活動の指導とその実際①（自立活動の時間における指導に着目して）			
第１１回：自立活動の指導とその実際②（自立活動の指導における指導と各教科等の指導との関連に着目して）			
第１２回：自立活動の指導に活用される理論・技法について			
第１３回：肢体不自由児への支援機器等の活用や教材・教具の工夫			
第１４回：進路指導やキャリア教育の視点からの指導・支援			

第15回：インクルーシブ教育システムと合理的配慮

定期試験

テキスト

- (1) 安藤隆男・藤田継道 編著 (2015) よくわかる肢体不自由教育 ミネルヴァ書房
ISBNコード：978462307250.
- (2) 北川貴章・安藤隆男 編著 (2019) 「自立活動の指導」のデザインと展開－悩みを成長につなげる実践 32 ジアース教育新社 ISBNコード：9784863715134
- (3) 文部科学省 (2018) 特別支援学校小学部・中学部学習指導要領解説各教科編 (小学部・中学部) 平成30年3月 開隆堂出版. ISBNコード：9784304042300
又は
文部科学省 (2020) 特別支援学校高等部学習指導要領解説総則等編 平成31年2月
ジアース教育新社 ISBNコード 9784863715257
*両資料は、文部科学省ホームページにPDF版あり
<文部科学省ホームページURL>
https://www.mext.go.jp/a_menu/shotou/tokubetu/main/1386427.htm
*基礎免許状の学校種に沿っていずれかを選択
- (4) 文部科学省 著作 (2018) 特別支援学校教育要領・学習指導要領解説自立活動編 (幼稚園部・小学部・中学部) 開隆堂出版 ISBNコード：9784304042317
*高等部の場合も本資料を準用する。本資料は、文部科学省ホームページにPDF版あり
<文部科学省ホームページURL>
https://www.mext.go.jp/a_menu/shotou/tokubetu/main/1386427.htm

参考書・参考資料等

- (1) 筑波大学附属桐が丘特別支援学校 編著 (2011) 特別支援教育における肢体不自由教育の創造と展開 2「わかる」授業のための手だて－子どもに「できた！」を実感させる指導の実例 ジアース教育新社 ISBNコード：9784863711648
- (2) 川間健之介・長沼俊夫 編著 (2020) 新訂 肢体不自由児の教育 放送大学教育振興会
ISBNコード：9784595321719
- (3) 特別支援学校小学部・中学部学習指導要領 平成29年告示
- (4) 特別支援学校小学部・中学部学習指導要領解説総則編 (幼稚園部・小学部・中学部) 平成30年3月
- (5) 特別支援学校小学部・中学部学習指導要領解説各教科編 (小学部・中学部) 平成30年3月
- (6) 特別支援学校高等部学習指導要領 平成31年2月告示
* (3)～(6)の資料は文部科学省ホームページでPDF版あり。各自の基礎免許状学

校種に合わせて選択して活用すること。

<文部科学省ホームページURL>

https://www.mext.go.jp/a_menu/shotou/tokubetu/main/1386427.htm

(7) 小学校学習指導要領 平成 29 年告示 等 各校種の学習指導要領及び解説

* 文部科学省ホームページで PDF 版あり。各自の基礎免許状学校種に合わせて選択して活用すること。

<文部科学省ホームページURL>

https://www.mext.go.jp/a_menu/shotou/new-cs/1384661.htm

(8) 文部科学省初等中等教育局特別支援教育課 (2021) 障害のある子供の教育支援の手引
～子供たち一人一人の教育的ニーズを踏まえた学びの充実に向けて～

<文部科学省ホームページURL>

https://www.mext.go.jp/a_menu/shotou/tokubetu/material/1340250_00001.htm

学生に対する評価

レポート評価 (50%)、科目修得試験 (50%) の割合で総合して評価する

授業科目名： 病弱教育指導法	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 2単位	担当教員名： 南風野 久子
			担当形態： 単独
科 目	特別支援教育領域に関する科目		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	心身に障害のある幼児、児童又は生徒の教育課程及び指導法に関する科目 (中心領域：病)		
授業のテーマ及び到達目標			
病虚弱児に対する教育については、従来あまり積極的な考え方がなされていなかった。今日、この教育の対象となっている病虚弱児の場合には慢性の病患や身体虚弱のために、長期にわたり医療や生活規制を必要とするものであり、その間適切な教育が受けられない場合は心理的・社会的に種々の不適応を起こし、病気の回復を妨げる恐れがある。病弱教育では、病類に応じた教育的配慮が行われていることを理解する。また、自立活動及び自立活動の指導と関連付けた具体的な授業場面を想定した授業設計を行う方法を身に付ける。			
授業の概要			
関係法規や学習指導要領に示されている規定を踏まえながら、以下のことについて学んでいく。 (1) 多様な教育相談活動の実施について学習する。 (2) 児童生徒の実態の把握の方法を学習する。 (3) 教育課程の編成及びカリキュラム・マネジメントについて学習する。 (4) 自立活動の指導について学習する。			
授業計画			
第1回：病虚弱児教育の意義を踏まえた教育課程編成			
第2回：病虚弱児教育の指導内容・指導方法・指導計画			
第3回：病虚弱児への教育的支援①幼児期における支援（早期教育相談体制の充実など）			
第4回：病虚弱児への教育的支援②義務教育段階における支援			
第5回：教育課程に基づく指導計画の作成①：病状の重い児童生徒（学習空白、学習の遅れ、身体活動の制限）			
第6回：教育課程に基づく指導計画の作成②：回復期にある児童生徒（経験の不足や偏り）			
第7回：教科指導と生活指導（①グループ編成の工夫 ②直接的経験の機会を多くする）			
第8回：教科指導と生活指導（③教材、教具の開発と活用、ICTの活用）			
第9回：教科指導と生活指導（④保健や安全への配慮）			
第10回：自立活動の指導と個別指導計画			
第11回：学習指導案の作成（①目標 ②内容 ③指導計画の作成 ④障害の種類に応じた指			

<p>導)</p> <p>第12回：カリキュラム・マネジメントの視点に立った授業改善及び教育課程の評価・改善</p> <p>第13回：進路に対する支援</p> <p>第14回：医療との連携のための組織</p> <p>第15回：特別支援学校と地域の小・中学校や幼稚園、保育所、療育センターなどとの連携</p> <p>定期試験</p>
<p>テキスト</p> <p>(1) 独立行政法人 国立特別支援教育総合研究所 特別支援教育の基礎・基本2020 ジアース教育新社 ISBNコード：9784863786154</p> <p>(2) 文部科学省 著作 (2018) 特別支援学校教育要領・学習指導要領解説自立活動編 (幼稚園部・小学部・中学部) 開隆堂出版 ISBNコード：9784304042317</p>
<p>参考書・参考資料等</p> <p>(1) 特別支援学校小学部・中学部学習指導要領 平成29年告示</p> <p>(2) 特別支援学校小学部・中学部学習指導要領解説総則編 (幼稚園部・小学部・中学部) 平成30年3月</p> <p>(3) 特別支援学校小学部・中学部学習指導要領解説各教科編 (小学部・中学部) 平成30年3月</p> <p>(4) 特別支援学校高等部学習指導要領 平成31年2月告示</p> <p>* (1)～(4)の資料は文部科学省ホームページでPDF版あり。各自の基礎免許状学校種にに合わせて選択して活用すること。</p> <p><文部科学省ホームページURL> https://www.mext.go.jp/a_menu/shotou/tokubetu/main/1386427.htm</p> <p>(5) 全国特別支援学校病弱教育校長会 病気の子どものための教育必携―特別支援学校学習指導要領等を踏まえた ジアース教育新社 ISBNコード：9784863715202</p> <p>(6) 日本育療学会 標準『病弱児の教育』テキスト ジアース教育新社 ISBNコード：9784863714939</p> <p>(7) 文部科学省初等中等教育局特別支援教育課 (2021) 障害のある子供の教育支援の手引～子供たち一人一人の教育的ニーズを踏まえた学びの充実に向けて～ <文部科学省ホームページURL> https://www.mext.go.jp/a_menu/shotou/tokubetu/material/1340250_00001.htm</p>
<p>学生に対する評価</p> <p>レポート評価 (50%)、科目修得試験 (50%) の割合で総合して評価する</p>

授業科目名： 視覚障害教育総論		教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： 2単位	担当教員名： 小原 直哉
				担当形態： 単独
科 目		特別支援教育領域に関する科目		
施行規則に定める 科目区分又は事項等		・心身に障害のある幼児、児童又は生徒の心理、生理及び病理に関する科目 ・心身に障害のある幼児、児童又は生徒の教育課程及び指導法に関する科目 (中心領域：視)		
授業のテーマ及び到達目標 (1) 視覚障害児の教育の場とその対象範囲、視覚の生理及び病理を理解する。 (2) 視覚障害児の教科指導の具体的内容、方法、配慮事項を理解する。 (3) 視覚障害児の自立活動の指導内容、6つの区分との関連を理解する。 (4) 視覚障害児のキャリア教育、進路指導、福祉政策、家庭及び多機関連携についての認識を深める。				
授業の概要 関係法規や学習指導要領に示されている規定を踏まえながら、以下のことについて学んでいく。 子どもは、模倣によって多くの事を学ぶ。ところが視覚障害児は視覚による模倣が不可能であったり、困難であったりするため、日常生活に必要な動作や技術を習得することが難しい。また、人間は情報の80%を視覚から得ているといわれている。この情報入手の大半を奪われた視覚障害児に対する教育が、具体的にどのような内容、方法で行われているか、配慮事項にはどのようなことが挙げられるかを学ぶ。また、視覚障害者に対するキャリア教育、福祉政策、家庭及び多機関連携等の現状を知り、共生社会への足がかりを「視覚障害教育」を通して学修する。				
授業計画 第1回：視覚障害児の学び（教育及び支援の対象となる視覚障害の範囲、学びの場、教育課程） 第2回：特別支援学校のセンター的機能、視覚障害者と福祉政策、家庭及び多機関連携 第3回：視覚の成り立ち（視覚器の構造 主な視機能 視覚障害の程度の把握 主な眼疾患と見え方） 第4回：視覚障害乳幼児の発達と支援（発達に影響する要因 発達の特徴と支援の留意事項 弱視児の「見る力」の発達の支援 幼稚園・幼稚園等における指導） 第5回：盲児の指導（視覚以外の感覚を使った「体験」 触覚の特性） 第6回：盲児の指導（上手に触る力を育てる指導と教材の工夫 盲児の点字指導）				

- 第7回：弱視児の指導（弱視児の視覚認知 見やすい環境の整備）
- 第8回：弱視児の指導（教材の工夫 弱視レンズ 指導の実際）
- 第9回：教科の指導（同じ教科書 「準ずる教育」の定義 指導内容の精選 学習指導要領に示された指導上の配慮事項 特徴を生かして工夫された指導内容 教科指導と自立活動との関連）
- 第10回：教科書（ニーズに応じた教科書 法的根拠 教科書のバリアフリー法 作成の課題）
- 第11回：点字（点字の歴史 点字の概要 点字の仕組み 点字の表記規則 視覚障害者の生活と点字）
- 第12回：自立活動の指導（自立活動とは 自立活動の「内容」 視覚障害児の自立活動の実際）
- 第13回：自立活動の指導（個別の指導計画 指導時間と指導形態 重複障害児の自立活動）
- 第14回：歩行指導（幼児期の歩行指導 白杖の役割と操作法の指導 ランドマークの種類と活用 メンタルマップの形成 自立への態度と習慣 弱視児の歩行指導 中途失明者の歩行指導）
- 第15回：キャリア教育・進路指導（視覚特別支援学校におけるキャリア教育・進路指導 伝統的な職業としての三療 視覚障害者の大学進学）

定期試験

テキスト

- （1）青柳まゆみ・鳥山由子 編著 『新・視覚障害教育入門』 株式会社ジアース教育新社
ISBNコード：9784863715332

参考書・参考資料等

- （1）特別支援学校小学部・中学部学習指導要領 平成29年告示
- （2）特別支援学校小学部・中学部学習指導要領解説総則編（幼稚部・小学部・中学部）平成30年3月
- （3）特別支援学校小学部・中学部学習指導要領解説各教科編（小学部・中学部）平成30年3月
- （4）特別支援学校高等部学習指導要領 平成31年2月告示
- ＊（1）～（4）の資料は文部科学省ホームページでPDF版あり。
- <文部科学省ホームページURL>
- https://www.mext.go.jp/a_menu/shotou/tokubetu/main/1386427.htm
- （5）文部科学省 著作（2018）特別支援学校教育要領・学習指導要領解説自立活動編（幼稚部・小学部・中学部） 開隆堂出版 ISBNコード：9784304042317
- ＊本資料は、文部科学省ホームページにPDF版あり
- <文部科学省ホームページURL>
- https://www.mext.go.jp/a_menu/shotou/tokubetu/main/1386427.htm

- (6) 香川邦生 編著『視覚障害教育に携わる方のために（五訂版）』 慶應義塾大学出版会
ISBNコード：9784766423679
- (7) 香川邦生・千田耕基 編著『小・中学校における視力の弱い子どもの学習支援』
教育出版 ISBNコード：9784316802701
- (8) 大河原 潔 他（編著）「視力の弱い子どもの理解と支援」 教育出版
ISBNコード：9784316338606
- (9) 文部科学省初等中等教育局特別支援教育課（2021）障害のある子供の教育支援の手引
～子供たち一人一人の教育的ニーズを踏まえた学びの充実に向けて～
<文部科学省ホームページURL>
https://www.mext.go.jp/a_menu/shotou/tokubetu/material/1340250_00001.htm

学生に対する評価

レポート評価（50％）、科目修得試験（50％）の割合で総合して評価する

授業科目名： 聴覚障害教育総論		教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： 2 単位	担当教員名： 喜屋武 睦
				担当形態： 単独
科 目		特別支援教育領域に関する科目		
施行規則に定める 科目区分又は事項等		・心身に障害のある幼児、児童又は生徒の心理、生理及び病理に関する科目 ・心身に障害のある幼児、児童又は生徒の教育課程及び指導法に関する科目 (中心領域：聴)		
授業のテーマ及び到達目標 (1) 聴覚障害の基礎的な生理病理的特徴、聴力検査について理解する。 (2) 聴覚障害児のコミュニケーションについて理解する。 (3) 聴覚障害児の言語発達とその支援について理解する。 (4) 聴覚に障害があると学習上、社会生活上、心理上にどのような影響を及ぼすのかを理解する。 (5) 聴覚障害児の自立活動の指導内容踏まえ、各教科指導内容との関連性を学ぶ。 (6) 乳幼児から成人に至るまで、どのような課題があり、どのような支援が行われていくのか、歴史的背景を踏まえて理解する。				
授業の概要 関係法規や学習指導要領に示されている規定を踏まえながら、以下のことについて学んでいく。 聴覚の障害は、単に音が「聞こえない」あるいは「聞こえにくい」障害と理解している人がほとんどである。しかし、日常生活の中で聴覚的情報の入力が制限されていることは、聴者が想像する以上に厳しい状況にあり、多様な障害の中でも誤解されている面が多々ある。さらに、聴覚障害児者が直面する重要な問題の一つに「言語の獲得・発達」がある。そのために聴覚特別支援学校（聾学校）、聴覚特別支援学級（難聴学級）、通級による指導における指導場面では多くの教師が言語獲得・発達の支援のために多大な労力を注いでいることについて学ぶ。 授業では、聴覚障害児のコミュニケーションの発達を中心課題として、聴覚障害児教育の変遷、補聴器等の補助機器の発達、乳幼児期の両親支援や青年後期における現状と課題を紹介する				
授業計画 第1回：耳のしくみ 第2回：聴覚障害の種類と心理的・生理的・病理的特徴 第3回：聴力検査				

第4回：聴覚障害児教育の歴史
 第5回：海外における聴覚障害児教育
 第6回：様々なコミュニケーション方法
 第7回：聴覚障害児の言語獲得・習得
 第8回：聴覚障害児への言語指導法（1）理論
 第9回：聴覚障害児への言語指導法（2）実践
 第10回：聾学校（特別支援学校）における聴覚障害児教育の特徴と課題
 第11回：通常の小中学校における聴覚障害児教育の特徴と課題
 第12回：様々な学び方の可能性
 第13回：障害の早期発見・早期療育と両親支援
 第14回：高等教育段階における聴覚障害児
 第15回：自立活動の指導内容を踏まえた学習指導案の作成、授業改善の方法
 定期試験

テキスト

- （1）中野 善達・根本 匡文（2008）『改訂版 聴覚障害教育の基本と実際』
 田研出版 ISBNコード：9784860890186

参考書・参考資料等

- （1）特別支援学校小学部・中学部学習指導要領 平成29年告示
 （2）特別支援学校小学部・中学部学習指導要領解説総則編（幼稚部・小学部・中学部）平成30年3月
 （3）特別支援学校小学部・中学部学習指導要領解説各教科編（小学部・中学部）平成30年3月
 （4）特別支援学校高等部学習指導要領 平成31年2月告示
 ＊（1）～（4）の資料は文部科学省ホームページでPDF版あり。
 ＜文部科学省ホームページURL＞
https://www.mext.go.jp/a_menu/shotou/tokubetu/main/1386427.htm
 （5）文部科学省 著作（2018）特別支援学校教育要領・学習指導要領解説自立活動編（幼稚部・小学部・中学部） 開隆堂出版 ISBNコード：9784304042317
 ＊本資料は、文部科学省ホームページにPDF版あり
 ＜文部科学省ホームページURL＞
https://www.mext.go.jp/a_menu/shotou/tokubetu/main/1386427.htm
 （6）文部科学省初等中等教育局特別支援教育課（2021）障害のある子供の教育支援の手引
 ～子供たち一人一人の教育的ニーズを踏まえた学びの充実に向けて～
 ＜文部科学省ホームページURL＞
https://www.mext.go.jp/a_menu/shotou/tokubetu/material/1340250_00001.htm

- (7) 日本音響学会 編『音のなんでも小事典』 講談社 ISBNコード：9784062571500
- (8) 中村 健太郎『図解雑学・音のしくみ』 ナツメ出版企画 ISBNコード：9784816339172
- (9) 鈴木 淳一・小林 武夫『耳科学一難聴に挑む一』 中公新書 ISBNコード：9784121015983
- (10) 小寺 一興『補聴器フィッティングの考え方』 診断と治療社
ISBNコード：9784787818102
- (11) 日本聴覚医学会 編『聴覚検査の実際(第4版)』 南山堂
ISBNコード：9784525370442
- (12) 斉藤 くるみ『少数言語としての手話』 東京大学出版会
ISBNコード：9784130830478
- (13) 長南 浩人 編著『手話の心理学入門』 東峰書房 ISBNコード：9784885920660
- (14) 脇中 起余子『聴覚障害教育 これまでとこれからーコミュニケーション論争 9歳の壁・障害認識を中心にー』 北大路書房 ISBNコード：9784762826900
- (15) 我妻 敏博『聴覚障害児の言語指導～実践のための基礎知識～』 田研出版
ISBNコード：9784860890346
- (16) 四日市 章 編著『リテラシーと聴覚障害』 コレール社
ISBNコード：9784876377114

学生に対する評価

レポート評価（50％）、科目修得試験（50％）の割合で総合して評価する

授業科目名： 知的障害教育総論		教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： 2単位	担当教員名： 清水 直治
				担当形態： 単独
科 目		特別支援教育領域に関する科目		
施行規則に定める 科目区分又は事項等		・心身に障害のある幼児、児童又は生徒の心理、生理及び病理に関する科目 ・心身に障害のある幼児、児童又は生徒の教育課程及び指導法に関する科目 (中心領域：知)		
授業のテーマ及び到達目標 (1) 「特殊教育」の歴史と「特別支援教育」への転換について説明できる。 (2) 知的障害の定義や診断・アセスメントについて説明できる。 (3) 知的障害教育における教育課程とその編成について、具体的に説明できる。 (4) 知的障害教育における指導・支援の方法について、具体的に説明できる。 (5) 自立活動の指導の意義と指導プロセスについて学ぶ。 (6) 「共生社会の形成に向けたインクルージョン教育」の理念と、それを推進するための要件について説明できる。 (7) 障害の見方の変遷と『障害のある人の権利に関する条約』について、説明できる。				
授業の概要 関係法規や学習指導要領に示されている規定を踏まえながら、以下のことについて学んでいく。 知的障害のある幼児児童生徒の学校教育である特別支援教育を実施するにあたって、知的障害の定義や診断・アセスメントについて知るとともに、知的障害教育の教育課程とその編成の特徴や多様な指導・支援の方法と内容を学修するなかで、今後の方向性としての「共生社会の形成に向けたインクルージョン教育」を推進するための要件や実践について考える。 また、その背景にある障害の見方の変遷や『障害のある人の権利に関する条約』にもとづく人権擁護、そして障害のある幼児児童生徒を対象とした特殊教育の歴史、及び卒業後の自立と社会参加を見据えた生涯発達支援について考える。				
授業計画 第1回：知的障害教育：知的障害のある幼児児童生徒の特別支援教育 第2回：特殊教育の歴史と特別支援教育への転換：その理念と方向性 第3回：知的障害の定義、診断・アセスメント：教育的ニーズに応じた学校教育に向けて 第4回：知的障害教育の教育課程(1) 学習指導要領の変遷 第5回：知的障害教育の教育課程(2) 教科学習				

第 6 回：知的障害教育の教育課程(3) 領域と教科を合わせた指導

第 7 回：知的障害教育の教育課程(4) 自立活動

第 8 回：知的障害教育の教育課程(5) 特別支援学級、通級による指導

第 9 回：知的障害児・者の心理・生理・病理と指導法(1)

生涯発達支援のためのライフステージにおける対応

第 10 回：知的障害児・者の心理・生理・病理と指導法(2)

早期からの発達相談と親・家族支援

第 11 回：知的障害児・者の心理・生理・病理と指導法(3)

個別の教育支援計画・個別の指導計画の作成

第 12 回：知的障害児・者の心理・生理・病理と指導法(4) 行動障害の理解と適切行動支援

第 13 回：知的障害児・者の心理・生理・病理と指導法(5)

ユニバーサルデザインによる環境整備・授業設計

第 14 回：共生社会の形成に向けたインクルーシブ教育システム構築の推進と学校変革

第 15 回：『障害のある人の権利に関する条約』における人権擁護とインクルージョン教育

定期試験

テキスト

- (1) 太田俊己・佐藤慎二(2020)『改訂新版 知的障害教育総論』放送大学教育振興会
NHK出版 ISBNコード：9784595321740

参考書・参考資料等

- (1) 特別支援学校小学部・中学部学習指導要領 平成 29 年告示
- (2) 特別支援学校小学部・中学部学習指導要領解説総則編（幼稚部・小学部・中学部）
平成 30 年 3 月
- (3) 特別支援学校小学部・中学部学習指導要領解説各教科編（小学部・中学部）
平成 30 年 3 月
- (4) 特別支援学校高等部学習指導要領 平成 31 年 2 月告示
- ＊（１）～（４）の資料は文部科学省ホームページに PDF 版あり
＜文部科学省ホームページURL＞
https://www.mext.go.jp/a_menu/shotou/tokubetu/main/1386427.htm
- (5) 文部科学省（2018）特別支援学校教育要領・学習指導要領解説自立活動編（幼稚部・小学部・中学部）開隆堂出版 ISBN コード：9784304042317
- ＊本資料は、文部科学省ホームページに PDF 版あり
＜文部科学省ホームページURL＞
https://www.mext.go.jp/a_menu/shotou/tokubetu/main/1386427.htm
- (6) 文部科学省初等中等教育局特別支援教育課（2021）障害のある子供の教育支援の手引
～子供たち一人一人の教育的ニーズを踏まえた学びの充実に向けて～

<文部科学省ホームページURL>

https://www.mext.go.jp/a_menu/shotou/tokubetu/material/1340250_00001.htm

- (7) 世界保健機構 (WHO) (2018) ICD-11 (国際疾病分類第 11 版)
- (8) アメリカ精神医学会 (2013) DSM-5 (精神障害の診断と統計の手引き第5版)
- (9) 英国行動障害支援協会(編) 清水直治 (監訳) ・ゲラ弘美 (編訳) (2015) 『行動障害の理解と適切行動支援-英国における行動問題への対処アプローチ』 ジアース教育新社
ISBN コード : 9784863713161
- (10) 英国行動障害支援協会(編) 清水直治 (監訳) ・ゲラ弘美 (編訳) (2019) 『適切行動支援 PBS スタディパック-知的障害のある人の行動障害を減らす支援スキルを学ぶために-』 ジアース教育新社 ISBN コード : 978-4863715035
- (11) 日本ポーターズ協会 (2020) リニューアル版『ポーターズ早期教育プログラム-0 歳から家庭でできる発達支援ガイド-』 日本ポーターズ協会
- (12) 外務省 (2014). 『障害のある人の権利に関する条約』
- (13) 厚生労働省 (2013) 『障害者差別解消法』
- (14) 文部科学省 (2006) 改正『教育基本法』
- (15) 文部科学省 (2009) 改正『学校教育法』
- (16) 文部科学省 (2012) 『共生社会の形成に向けたインクルーシブ教育システム構築のための特別支援教育の推進(報告) 』
- (17) 国立特別支援教育総合研究所 (2020) 『特別支援教育の基礎・基本 新訂版』 ジアース教育新社 ISBN コード : 9784863715486
- (18) 国立特別支援教育総合研究所 (2017) 『インクルーシブ教育システム構築のための学校における体制づくりのガイドブック』 東洋館出版社
ISBN コード : 9784491033730
- (19) 国立特別支援教育総合研究所 (2017) 『インクルーシブ教育システム構築に向けた地域における体制づくりのグランドデザイン：文部科学省モデル事業等の実践を通じて』 東洋館出版社 ISBNコード : 9784491033747

学生に対する評価

レポート評価 (50%)、科目修得試験 (50%) の割合で総合評価を行う

授業科目名： 肢体不自由教育総論		教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： 2単位	担当教員名： 徳永 亜希雄
				担当形態： 単独
科 目		特別支援教育領域に関する科目		
施行規則に定める 科目区分又は事項等		・心身に障害のある幼児、児童又は生徒の心理、生理及び病理に関する科目 ・心身に障害のある幼児、児童又は生徒の教育課程及び指導法に関する科目 (中心領域：肢)		
授業のテーマ及び到達目標				
肢体不自由の起因疾患に関する心理・生理・病理についての特徴とそれらの相互作用に関する知識、及び感覚機能の発達、知能の発達、認知の特性を理解する。併せて、家庭や医療機関等との連携の重要性について確認する。加えて、肢体不自由児の指導のための教育課程編成とカリキュラムマネジメントについて理解するとともに、各教科等における配慮事項について理解するとともに、自立活動及び自立活動の指導と関連付けた授業設計を行う方法を身に付ける。 到達目標は、これらの内容についてそれぞれ理解し、説明できるようになることである。				
授業の概要				
本授業では、まず、肢体不自由の起因疾患に関する心理・生理・病理についての特徴とそれらの相互作用に関する知識、及び感覚機能の発達、知能の発達、認知の特性を理解する。併せて、家庭や医療機関等との連携について確認する。加えて、肢体不自由児の指導のための教育課程編成とカリキュラムマネジメントについて理解するとともに、各教科等における配慮事項について理解し、自分の言葉で説明できるようにするとともに、自立活動及び自立活動の指導と関連付けた授業設計を行う方法を身に付けられるよう、学修を深めていく。				
授業計画				
第1回：肢体不自由児の概要				
第2回：肢体不自由の主な起因疾患の理解と指導①―脳原性の疾患―				
第3回：肢体不自由の主な起因疾患の理解と指導②―筋原性の疾患―				
第4回：肢体不自由の主な起因疾患の理解と指導③―脊椎脊髄性、末梢神経の疾患―				
第5回：肢体不自由に関連する骨・筋の仕組みと運動機能・感覚機能の発達				
第6回：肢体不自由児の知覚及び知能の発達と認知特性				
第7回：肢体不自由児の学びの場の理解				
第8回：肢体不自由教育の歴史				
第9回：肢体不自由児への指導と支援のための教育課程編成とカリキュラムマネジメント及び個別の指導計画と個別の教育支援計画の作成				

第10回：肢体不自由児への教科指導の在り方

第11回：肢体不自由児への自立活動の指導の在り方

第12回：肢体不自由児への指導の実際

第13回：肢体不自由児への指導における補助具，補助的手段，コンピュータ等の活用

第14回：肢体不自由児へのキャリア教育と進路指導

第15回：肢体不自由児を支える家庭や医療機関との連携

定期試験

テキスト

- (1) 杉野学・長沼俊夫・徳永亜希雄 編著『特別支援教育の基礎』大学図書出版 2018 年
ISBNコード 9784907166892
- (2) 川間健之介・長沼俊夫 編著 『新訂 肢体不自由児の教育』放送大学教育振興会
2022年 ISBNコード 9784595321719

参考書・参考資料等

- (1) 特別支援学校小学部・中学部学習指導要領 平成 29 年告示
- (2) 特別支援学校小学部・中学部学習指導要領解説総則編（幼稚部・小学部・中学部）平成 30 年 3 月
- (3) 特別支援学校小学部・中学部学習指導要領解説各教科編（小学部・中学部）平成 30 年 3 月
- (4) 特別支援学校高等部学習指導要領 平成 31 年 2 月告示
* (1) ～ (4) の資料は文部科学省ホームページで PDF 版あり。各自の基礎免許状学校種に合わせて選択して活用すること。
<文部科学省ホームページURL>
https://www.mext.go.jp/a_menu/shotou/tokubetu/main/1386427.htm
- (5) 文部科学省初等中等教育局特別支援教育課（2021）障害のある子供の教育支援の手引
～子供たち一人一人の教育的ニーズを踏まえた学びの充実に向けて～
<文部科学省ホームページURL>
https://www.mext.go.jp/a_menu/shotou/tokubetu/material/1340250_00001.htm

学生に対する評価

レポート評価（50％）、科目修得試験（50％）の割合で総合して評価する

授業科目名： 病弱教育総論	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： 2単位	担当教員名： 南風野 久子
			担当形態： 単独
科 目	特別支援教育領域に関する科目		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	・心身に障害のある幼児、児童又は生徒の心理、生理及び病理に関する科目 ・心身に障害のある幼児、児童又は生徒の教育課程及び指導法に関する科目 (中心領域：病)		
授業のテーマ及び到達目標			
病弱・身体虚弱児は、慢性的疾患や身体虚弱のため、長期にわたり医療や生活上の規制を必要としている。このような児童生徒については、その健康の回復や心身の望ましい発達を図るために、医療や生活規制と並行して適切な教育を行うことは極めて重要なことである。このような生活状況の中で、より充実した生活が営まれ、よりよい自己実現が図られることを意図する教育であることの理解を深める。			
授業の概要			
関係法規や学習指導要領に示されている規定を踏まえながら、以下のことについて学ぶ。 (1) 自己の病弱・身体虚弱の状態を理解し、健康状態を回復、改善するのに必要な生活様式を正しく実践する態度、習慣を養うための指導について学ぶ。 (2) 病気に対する心理的不安や行動制限に基づく欲求不満などを理解し、心理的動揺を解消するための指導を行う。 (3) 授業時数の制限や身体活動の制限を受けている場合が多いので、授業内容の精選や指導法、教具などの工夫によって学習の遅滞や学習の空白をできるだけ補う方策を講ずる事などを学ぶ。 (4) 病弱教育における教育的支援・連携及び特別支援学校がセンター機能として果たす役割について学ぶ。 (5) 自立活動の指導の意義と指導プロセスについて学ぶ。			
授業計画			
第1回：病弱・身体虚弱の理解			
第2回：病弱教育の歴史（外国・日本）とインクルーシブ教育			
第3回：病虚弱児の特性 ①心理的・生理的・病理的特性			
第4回：病虚弱児の特性 ②種類・身体発達の特徴			
第5回：病弱教育の教育課程の編成			
第6回：教科指導と生活指導 ①教育内容の精選			

<p>第7回：教科指導と生活指導 ②重点的指導・③指導形態</p> <p>第8回：幼児期における病弱・虚弱児への教育的支援</p> <p>第9回：義務教育段階における病弱・虚弱児への教育的支援と特別支援学校の役割</p> <p>第10回：医療との連携と特別支援学校の役割</p> <p>第11回：自立活動の指導法 ①目標、内容</p> <p>第12回：自立活動の指導法 ②指導計画の作成</p> <p>第13回：親の理解と家族支援、進路に対する支援</p> <p>第14回：個別の指導計画と学習指導案の作成</p> <p>第15回：カリキュラム・マネジメントの視点に立った授業改善及び教育課程の評価・改善 定期試験</p>
<p>テキスト</p> <p>(1) 独立行政法人 国立特別支援教育総合研究所 特別支援教育の基礎・基本2020 ジアース教育新社 ISBNコード：9784863786154</p> <p>(2) 文部科学省（2018）特別支援学校教育要領・学習指導要領解説自立活動編（幼稚部・小学部・中学部） 開隆堂出版 ISBNコード：9784304042317</p>
<p>参考書・参考資料等</p> <p>(1) 特別支援学校小学部・中学部学習指導要領 平成29年告示</p> <p>(2) 特別支援学校小学部・中学部学習指導要領解説総則編（幼稚部・小学部・中学部）平成30年3月</p> <p>(3) 特別支援学校小学部・中学部学習指導要領解説各教科編（小学部・中学部）平成30年3月</p> <p>(4) 特別支援学校高等部学習指導要領 平成31年2月告示</p> <p>＊（1）～（4）の資料は文部科学省ホームページでPDF版あり。各自の基礎免許状学校種に合わせて選択して活用すること。</p> <p>＜文部科学省ホームページURL＞</p> <p>https://www.mext.go.jp/a_menu/shotou/tokubetu/main/1386427.htm</p> <p>(5) 文部科学省初等中等教育局特別支援教育課（2021）障害のある子供の教育支援の手引～子供たち一人一人の教育的ニーズを踏まえた学びの充実に向けて～</p> <p>＜文部科学省ホームページURL＞</p> <p>https://www.mext.go.jp/a_menu/shotou/tokubetu/material/1340250_00001.htm</p> <p>(6) 全国特別支援学校病弱教育校長会 病気の子どものための教育必携—特別支援学校学習指導要領等を踏まえた ジアース教育新社 ISBNコード：9784863715202</p> <p>(7) 日本育療学会 標準『病弱児の教育』テキスト ジアース教育新社 ISBNコード：9784863714939</p>
<p>学生に対する評価</p> <p>レポート評価（50%）、科目修得試験（50%）の割合で総合して評価する</p>

授業科目名： 発達障害教育総論		教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 2単位	担当教員名： 西永 堅
				担当形態： 単独
科 目		免許状に定められることとなる特別支援教育領域以外の領域に関する科目		
施行規則に定める 科目区分又は事項等		・心身に障害のある幼児・児童又は生徒の心理・生理及び病理に関する科目 ・心身に障害のある幼児・児童又は生徒の教育課程及び指導法に関する科目 (中心領域：発達)		
授業のテーマ及び到達目標				
<p>(1) 発達障害研究、LD研究の流れを中心に、ADHD、自閉スペクトラム症、言語障害、情緒障害、知的障害等の脳機能に関わる病理面及び心理面や生理面の特徴について理解するとともに、障害の特性の把握方法、障害の特性等に応じたきめ細やかな指導・支援について理解する。</p> <p>(2) 発達障害教育のための教育支援システムとして、通級による指導や特別支援学級における特別の教育課程の意義及び編成の方法、カリキュラム・マネジメントの考え方を理解する。</p> <p>(3) 発達障害教育のための教育支援システムとして、自立活動における個別の指導計画、自立活動の指導との関連を踏まえた各教科等の指導の授業、学習環境の整備について理解する。</p> <p>(4) 発達障害教育のための教育支援システムとして、特別支援学校のセンター的機能及び家庭や医療、福祉及び労働機関との連携について理解する。</p>				
授業の概要				
<p>関係法規や学習指導要領に示されている規定を踏まえながら、以下のことについて学んでいく。</p> <p>発達障害とは、低年齢期に指摘される主に認知発達の遅れのことである。そのうち、LDとは、全般的な知的発達の遅れはないが、聞く、話す、読む、書く、計算する、推論するなど部分的な知的発達の遅れがあることを指す。LD、ADHD、自閉スペクトラム症、知的障害、言語障害、情緒障害などの概念を理解しながら、障害種別にこだわることなく、神経発達多様性や特別なニーズ教育であるインクルーシブ教育について学んでいく。</p>				
授業計画				
第1回：LDの概念の歴史的変遷、LDの定義				
第2回：LDの理解・特性の把握・指導・支援：学習面（読む、書く、計算する）と行動面・				

社会面について

第3回：ADHDの理解・特性の把握・指導・支援：多動・衝動性・不注意について

第4回：自閉スペクトラム症の理解・特性の把握・指導・支援：社会的コミュニケーション・常同行動について

第5回：知的障害の理解・特性の把握・指導・支援：知能指数・知能検査について

第6回：言語障害と情緒障害の理解・特性の把握・指導・支援

第7回：その他の発達障害（てんかん、行為障害等）の理解・特性の把握・指導・支援

第8回：各障害の相互作用、二次的な障害の理解

第9回：教育支援システム①：通級および特別支援学級の特別な教育課程編成の意義と方法、カリキュラム・マネジメントの考え方

第10回：教育支援システム②：障害の特性等に応じた自立活動における個別の指導計画、自立活動の指導との関連を踏まえた各教科等の指導の授業とその改善

第11回：教育支援システム③：障害の特性等に応じた教材・教具・ICTの活用、学習環境の整備

第12回：教育支援システム④：特別支援学校のセンター的機能、特別支援教育コーディネーター、チームアプローチと連携

第13回：教育支援システム⑤：家庭や医療、福祉及び労働機関との連携

第14回：子どもの発達①：認知発達と神経発達多様性について

第15回：子どもの発達②：言語発達及び社会性、その他の発達について

定期試験

テキスト

(1) 西永 堅（2017）『基本から理解したい人のための 子どもの発達障害と支援のしかたがわかる本』日本実業出版社 ISBNコード：9784534054685

(2) 文部科学省（2018）『特別支援学校 幼稚部教育要領 小学部・中学部学習指導要領 平成29年4月告示』海文堂出版 ISBNコード：9784303124243

*文部科学省ホームページでPDF版あり

参考書・参考資料等

(1) 山口 薫・西永 堅 編著（2010）『新訂 学習障害・学習困難の判定と支援教育』文教資料協会 ISBNコード：978-4938649272

(2) 山口 薫・金子 健（2004）『特別支援教育の展望 第3版』日本文化科学社 ISBNコード：978-4821073214

(3) 無藤 隆・大坪 治彦・岡本 祐子（2009）『よくわかる発達心理学』ミネルヴァ書房 ISBNコード：97-4623053797

(4) 秦野 悦子（2001）『ことばの発達入門（入門コース・ことばの発達と障害）』大修館書店 ISBNコード：9784469110623

- (5) 日本ポータージ協会 監修清水 直治・吉川 真知子 (2015) 『発達が気になる子どものためのポータージプログラム入門: 0歳から家庭でできる発達支援』 合同出版
ISBNコード: 9784772612425
- (6) 特別支援学校小学部・中学部学習指導要領 平成 29 年告示
- (7) 特別支援学校小学部・中学部学習指導要領解説総則編 (幼稚部・小学部・中学部) 平成 30 年 3 月
- (8) 特別支援学校小学部・中学部学習指導要領解説各教科編 (小学部・中学部) 平成 30 年 3 月
- (9) 特別支援学校教育要領・学習指導要領解説 自立活動編 (幼稚部・小学部・中学部) 平成 30 年 3 月
- (10) 特別支援学校高等部学習指導要領 平成 31 年 2 月告示
- * (6) ~ (9) の資料は文部科学省ホームページで PDF 版あり。各自の基礎免許状学校種にに合わせて選択して活用すること。
- <文部科学省ホームページURL>
https://www.mext.go.jp/a_menu/shotou/tokubetu/main/1386427.htm
- (11) 文部科学省初等中等教育局特別支援教育課 (2021) 障害のある子供の教育支援の手引
~子供たち一人一人の教育的ニーズを踏まえた学びの充実に向けて~
- <文部科学省ホームページURL>
https://www.mext.go.jp/a_menu/shotou/tokubetu/material/1340250_00001.htm
- (12) 平成29年改訂幼稚園教育要領
- (13) 小学校学習指導要領 (平成29年告示)
- (14) 中学校学習指導要領 (平成29年告示)
- (15) 高等学校学習指導要領 (平成30年告示)
- * (12) ~ (15) の資料は文部科学省ホームページで PDF 版あり。
- <文部科学省ホームページURL>
https://www.mext.go.jp/a_menu/shotou/new-cs/1384661.htm

学生に対する評価

レポート評価 (25%) スクーリング (25%)、科目修得試験 (50%) の割合で総合して評価する

授業科目名： 重複障害教育総論		教員の免許状取得のための 必修科目		単位数： 2単位		担当教員名： 原田 公人	
						担当形態： 単独	
科 目		免許状に定められることとなる特別支援教育領域以外の領域に関する科目					
施行規則に定める 科目区分又は事項等		・心身に障害のある幼児・児童又は生徒の心理・生理及び病理に関する科目 ・心身に障害のある幼児・児童又は生徒の教育課程及び指導法に関する科目 (中心領域：重複、含む領域：視、聴、知、肢、病)					
授業のテーマ及び到達目標							
(1) 視覚、聴覚、知的、肢体不自由、病弱を含む重複障害に関する心理・生理・病理について理解する。							
(2) 重複障害の状態や特性及び心身の発達の段階、特別支援学校の教育実践に即した教育課程の編成の方法とカリキュラム・マネジメントの基本的な考え方を理解する。							
(3) 視覚、聴覚、知的、肢体不自由、病弱を含む重複障害に関する教育課程・指導法(自立活動を含む)について理解する。							
授業の概要							
視覚、聴覚、知的、肢体不自由、病弱を含む重複障害に関する心理、生理、病理について理解するとともに、重複障害の状態や特性及び心身の発達の段階、特別支援学校の教育実践に即した教育課程の編成の方法とカリキュラム・マネジメントの基本的な考え方、重複障害に関する教育課程・指導法(自立活動を含む)について学ぶ。							
授業計画							
第1回：重複障害に係る各障害（視覚、聴覚、知的、肢体不自由、病弱）の心理・生理・病理							
第2回：重複障害の心理							
第3回：重複障害の生理・病理							
第4回：「重複障害者等に関する教育課程の取扱い」及び各規定の適用方法							
第5回：重複障害に係る各障害の教育課程・指導法(自立活動を含む)① 視覚障害・聴覚障害							
第6回：重複障害に係る各障害の教育課程・指導法(自立活動を含む)② 知的障害・肢体不自由・病弱							
第7回：重複障害の指導 ①自立活動について							
第8回：重複障害の指導 ②姿勢・運動に関する指導について							
第9回：重複障害の指導 ③言語・コミュニケーションに関する指導について							
第10回：重複障害の指導 ④授業づくりとその評価							

第11回：重複障害の個別の指導計画と個別の教育支援計画の作成・活用と評価・改善

第12回：重複障害教育における教育課程の編成とカリキュラム・マネジメント

第13回：重度・重複障害の心理・生理・病理と教育課程・指導法

第14回：重複障害の医療的ケア

第15回：重複障害における教育、医療、福祉、労働機関等との連携

定期試験

テキスト

テキストは指定しない。自作の講義資料を Google クラウドに配布する。

参考書・参考資料等

(1) 穴戸和成/原田公人 (2023) 「聴覚障害教育の基本と実践」慶應義塾大学出版会

(2) 文部科学省初等中等教育局特別支援教育課 (2021) 障害のある子供の教育支援の手引
～子供たち一人一人の教育的ニーズを踏まえた学びの充実に向けて～

<文部科学省ホームページURL>

https://www.mext.go.jp/a_menu/shotou/tokubetu/material/1340250_00001.htm

(3) 特別支援学校小学部・中学部学習指導要領 平成29年告示

(4) 特別支援学校小学部・中学部学習指導要領解説総則編 (幼稚部・小学部・中学部)
平成30年3月

(5) 特別支援学校小学部・中学部学習指導要領解説各教科編 (小学部・中学部)
平成30年3月

(6) 特別支援学校高等部学習指導要領 平成31年2月告示

* (3) ～ (6) の資料は文部科学省ホームページでPDF版あり。

<文部科学省ホームページURL>

https://www.mext.go.jp/a_menu/shotou/tokubetu/main/1386427.htm

(7) 文部科学省 (2018) 特別支援学校教育要領・学習指導要領解説自立活動編
(幼稚部・小学部・中学部) 開隆堂出版 ISBNコード：9784304042317

*本資料は、文部科学省ホームページにPDF版あり

<文部科学省ホームページURL>

https://www.mext.go.jp/a_menu/shotou/tokubetu/main/1386427.htm

(8) 特別支援教育の基礎・基本 2020 (ジアーズ新社)

学生に対する評価

レポート評価 (50%)、科目修得試験 (50%) の割合で総合して評価する

授業科目名： 発達障害教育指導法 (1)		教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： 2単位	担当教員名： 伊藤 一美・古川 潔 担当形態： オムニバス
科 目		免許状に定められることとなる特別支援教育領域以外の領域に関する科目		
施行規則に定める 科目区分又は事項等		・心身に障害のある幼児・児童又は生徒の心理・生理及び病理に関する科目 ・心身に障害のある幼児・児童又は生徒の教育課程及び指導法に関する科目 (中心領域：発達)		
授業のテーマ及び到達目標 (1) 知的障害、LD、ADHD、自閉スペクトラム症を含む発達障害(精神発達症)と言語障害、情緒障害等のある幼児・児童・生徒の心理・生理・病理について理解する。 (2) 知的障害、LD、ADHD、自閉スペクトラム症を含む発達障害(精神発達症)と言語障害、情緒障害等の指導・支援につながるアセスメント方法を理解する。 (3) 発達障害(精神発達症)の教育課程・指導法、発達障害(精神発達症)のある幼児児童生徒への指導実践について理解する。 (4) 特別支援学校のセンター的機能とその役割、家庭や医療・福祉及び労働機関との連携について理解する。				
授業の概要 令和の日本型学校教育において多様化する子どもたちに対応して個別最適な学びの実現が求められている。本科目では知的障害、LD、ADHD、自閉スペクトラム症を含む発達障害(精神発達症)のある幼児・児童又は生徒を中心に、言語障害、情緒障害等に関する基礎的な知識と、発達障害教育における指導・支援方法(授業のあり方、教育課程の編成を含む)について概説する。障害のあるなしにかかわらず、個別最適な学びの実現に必要な具体的な指導・支援方法を発達障害(精神発達症)の事例検討によって学び、インクルーシブ教育・特別支援教育における自らの課題を主体的に学ぶ態度や姿勢をもつことができることをねらいとする。				
授業計画 第1回：発達障害(精神発達症)の心理・生理・病理① 知的障害(精神発達症) (担当：伊藤) 第2回：発達障害(精神発達症)の心理・生理・病理② LD (担当：伊藤) 第3回：発達障害(精神発達症)の心理・生理・病理③ ADHD (担当：伊藤) 第4回：発達障害(精神発達症)の心理・生理・病理④ 自閉スペクトラム症 (担当：伊藤) 第5回：言語障害および情緒障害の心理・生理・病理 (担当：伊藤) 第6回：指導・支援につながるアセスメント① 知的機能・認知機能 (担当：伊藤)				

<p>第7回：指導・支援につながるアセスメント② 適応機能（担当：伊藤）</p> <p>第8回：指導・支援につながるアセスメント③ 読み書きと計算（担当：伊藤）</p> <p>第9回：発達障害(精神発達症)の教育課程・指導法① 特別支援学級における特別の教育課程の編成とカリキュラム・マネジメント（担当：伊藤）</p> <p>第10回：発達障害(精神発達症)の教育課程・指導法② 自立活動における個別の指導計画の作成とその取扱い（担当：伊藤）</p> <p>第11回：発達障害(精神発達症)の教育課程・指導法③ 通級による指導（担当：伊藤）</p> <p>第12回：発達障害(精神発達症)のある幼児児童生徒への指導実践① 個に応じた「手立て」の検討と指導（担当：古川）</p> <p>第13回：発達障害(精神発達症)のある幼児児童生徒への指導実践② 各教科等の授業づくりと自立活動の指導（担当：古川）</p> <p>第14回：発達障害(精神発達症)のある幼児児童生徒への指導実践③ ICT・教材・教具の活用、学習環境の整備（担当：古川）</p> <p>第15回：特別支援学校のセンター的機能とその役割、家庭や医療・福祉及び労働機関との連携（担当：伊藤）</p> <p>定期試験</p>
<p>テキスト</p> <p>テキストは指定しない。自作の講義資料をGoogleクラスルームにて配布する。</p>
<p>参考書・参考資料等</p> <p>(1) 西永 堅『子どもの発達障害と支援のしかたがわかる本』(2017)日本実業出版社 ISBN-N-13：978-4534054685</p> <p>(2) 宮本信也(編)『学習障害のある子どもを支援する』(2019)日本評論社 ISBN-13：978-4535563735</p> <p>(3) 平成29年改訂幼稚園教育要領</p> <p>(4) 小学校学習指導要領（平成29年告示）</p> <p>(5) 中学校学習指導要領（平成29年告示）</p> <p>(6) 高等学校学習指導要領（平成30年告示）</p> <p>* (3)～(6)の資料は文部科学省ホームページでPDF版あり。</p> <p><文部科学省ホームページURL></p> <p>https://www.mext.go.jp/a_menu/shotou/new-cs/1384661.htm</p> <p>(7) 特別支援学校幼稚部教育要領 小学部・中学部学習指導要領</p> <p>(8) 特別支援学校教育要領・学習指導要領解説 総則編（幼稚部・小学部・中学部）</p> <p>(9) 特別支援学校学習指導要領解説 各教科等編（小学部・中学部）</p> <p>(10) 特別支援学校教育要領・学習指導要領解説 自立活動編（幼稚部・小学部・中学部）</p> <p>(11) 特別支援学校高等部学習指導要領</p>

(12) 特別支援学校学習指導要領解説 総則等編 (高等部)

* (7) ~ (12) の資料は文部科学省ホームページでPDF版あり。

<文部科学省ホームページURL>

https://www.mext.go.jp/a_menu/shotou/tokubetu/main/1386427.htm

学生に対する評価

スクーリング評価 (25%)、レポート評価 (25%)、科目修得試験 (50%) を総合して評価する

授業科目名： 発達障害教育指導法 (2)	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： 2単位	担当教員名： 阿部 利彦 担当形態： 単独
科 目	免許状に定められることとなる特別支援教育領域以外の領域に関する科目		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	・心身に障害のある幼児・児童又は生徒の心理・生理及び病理に関する科目 ・心身に障害のある幼児・児童又は生徒の教育課程及び指導法に関する科目 (中心領域：発達)		
授業のテーマ及び到達目標 (1) 発達障害のひとつであるLDを中心に、知的障害、ADHD、自閉スペクトラム症と、言語障害、情緒障害等を持つ幼児・児童・生徒の心理・生理・病理について理解する。 (2) 発達障害のひとつであるLDを中心に、知的障害、ADHD、自閉スペクトラム症と、言語障害、情緒障害等を持つ幼児・児童・生徒の心理教育アセスメント、教育的支援の在り方を理解する。 (3) さまざまなつまずきとその支援方法を理解するとともに、発達障害を持つ幼児・児童・生徒に加え、さまざまな課題を抱えた幼児・児童・生徒に対する具体的な支援計画を立てることができる。 (4) 通級、支援教室、特別支援学級における特別の教育課程の編成、自立活動を踏まえた各教科等の授業づくり、カリキュラム・マネジメントの視点からの個別の指導計画、授業、教育課程の評価・改善について理解する。 (5) 校内、家庭、医療・福祉・労働機関との連携、特別支援学校のセンター的機能としての役割について理解する。			
授業の概要 関係法規や学習指導要領に示されている規定を踏まえながら、以下のことについて学んでいく。 今日は、学校で子どもたちが直面する問題も多様化・複雑化してきており、柔軟な手立てや支援機関との連携が求められるようになっていく。そこで、LDを中心とした発達障害に含まれる知的障害、ADHD、自閉スペクトラム症、言語障害、情緒障害等を持つ幼児・児童・生徒に加え、通常学級にいるさまざまな困難や支援ニーズを持つ幼児・児童・生徒をサポートする方法について探求していく。そのために、印刷教材などでさらに知識を深め、スクーリングにおける討論や演習を通じて理解を深める。			
授業計画			

<p>第1回：発達障害（LD、知的障害、ADHD、自閉スペクトラム症、言語障害、情緒障害）の心理・生理・病理</p> <p>第2回：通常学級にいるさまざまな困難や支援ニーズを持つ幼児・児童・生徒の心理</p> <p>第3回：心理教育アセスメント（各教科等の指導において生じる「困難さ」に対する「指導上の工夫の意図」を理解し、個に応じた「手立て」につなげるアセスメント）</p> <p>第4回：学習上のつまずきの把握と支援（ICT及び教材・教具の活用、学習環境の整備を含む）</p> <p>第5回：行動上のつまずきの把握と支援（ICT及び教材・教具の活用、学習環境の整備を含む）</p> <p>第6回：運動面のつまずきの把握と支援（ICT及び教材・教具の活用、学習環境の整備を含む）</p> <p>第7回：社会性のつまずきの把握と支援（クラスワイドのソーシャルスキル指導および授業を通じてのソーシャルスキル指導）</p> <p>第8回：自立活動を含む個別の指導計画の作成</p> <p>第9回：通級、特別支援教室、特別支援学級における特別の教育課程の編成、自立活動を踏まえた各教科等の授業づくり</p> <p>第10回：個別の指導計画、授業、教育課程の評価・改善とカリキュラム・マネジメント</p> <p>第11回：校内の連携 支援員との連携およびクラス担任・学校へのコンサルテーション</p> <p>第12回：家庭との連携 保護者との面接及び家族内の関係調整</p> <p>第13回：医療・福祉・労働機関との連携</p> <p>第14回：特別支援学校のセンター的機能としての役割</p> <p>第15回：教育のユニバーサルデザインと合理的配慮</p> <p>定期試験</p>
<p>テキスト</p> <p>阿部利彦・岩澤一美（2019）『これだけは知っておきたい 発達が気になる児童生徒の理解と指導・支援』金子書房 ISBNコード：9784760832705</p>
<p>参考書・参考資料等</p> <p>（1）阿部 利彦（2009）『クラスで気になる子の支援ズバツと解決ファイル』金子書房 ISBNコード：9784760823475</p> <p>（2）阿部 利彦（2012）『クラスで気になる子の支援ズバツと解決ファイルNEXT LEVEL』金子書房 ISBNコード：9784760826421</p> <p>（3）平成29年改訂幼稚園教育要領</p> <p>（4）小学校学習指導要領（平成29年告示）</p> <p>（5）中学校学習指導要領（平成29年告示）</p> <p>（6）高等学校学習指導要領（平成30年告示）</p> <p>*（3）～（6）の資料は文部科学省ホームページでPDF版あり。</p> <p><文部科学省ホームページURL></p> <p>https://www.mext.go.jp/a_menu/shotou/new-cs/1384661.htm</p>

- (7) 特別支援学校幼稚部教育要領 小学部・中学部学習指導要領
- (8) 特別支援学校教育要領・学習指導要領解説 総則編 (幼稚部・小学部・中学部)
- (9) 特別支援学校学習指導要領解説 各教科等編 (小学部・中学部)
- (10) 特別支援学校教育要領・学習指導要領解説 自立活動編 (幼稚部・小学部・中学部)
- (11) 特別支援学校高等部学習指導要領
- (12) 特別支援学校学習指導要領解説 総則等編 (高等部)

* (7) ～ (12) の資料は文部科学省ホームページでPDF版あり。

<文部科学省ホームページURL>

https://www.mext.go.jp/a_menu/shotou/tokubetu/main/1386427.htm

学生に対する評価

スクーリング評価 (25%)、レポート評価 (25%)、科目修得試験 (50%) を総合して評価する

授業科目名： 発達障害の判定とその 教育的対応Ⅰ	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： 1 単位	担当教員名： 西永 堅 担当形態： 単独
科 目	免許状に定められることとなる特別支援教育領域以外の領域に関する科目		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	・心身に障害のある幼児・児童又は生徒の心理・生理及び病理に関する科目 ・心身に障害のある幼児・児童又は生徒の教育課程及び指導法に関する科目 (中心領域：発達)		
授業のテーマ及び到達目標			
(1) 通級による指導及び特別支援学級における特別の教育課程の編成の意義を含むインクルーシブ教育について理解する。			
(2) LD 等発達障害 (LD、ADHD、自閉スペクトラム症、知的障害等) の定義と心理・生理・病理について説明できる。			
(3) LD 等発達障害の判定のためのアセスメントはどのように行うのか、その具体的方法を説明できる。			
(4) LD 等発達障害のある子どもへの指導法について、具体的方法を説明できる。			
(5) LD 等発達障害への教育的対応について、特別の教育課程の編成、個別の指導計画、各教科等の授業づくりと授業改善の視点から具体的方法を説明できる。			
(6) LD 等発達障害への教育的対応について、特別支援学校のセンター機能としての役割、家庭や医療、福祉及び労働機関との連携について理解する。			
特別支援教育の発展に伴い、新たにその対象に加えられるようになった「学習障害 (LD)」を中心に、判定方法とその教育的対応の具体的方策を学習することを目的とする。			
学習障害 (LD) とは、基本的には全般的な知的発達に遅れはないが、「聞く」「話す」「読む」「書く」「計算する」「推論する」等の学力の習得と使用に著しい困難を有する者を指し、文部科学省の調査によれば、ADHD (注意欠陥／多動性障害)、高機能自閉症等と合わせると学齢児の 8 % 以上存在することが報告されている。			
これらの子どもの適切な教育のためには、その判定の方法が確立していなければならない、またその判定技能を身に付けることが必要である。			
学力に遅れが見られる児童生徒について、特に算数・数学、国語の学力を精査し、LD の疑いがあれば、医学的な検査を専門医に依頼するとともに、各種の心理検査を実施し、その結果に基づいて適切な教育的対応を行う必要がある。			

本授業は、一般的発達検査、知能検査、社会生活能力検査とともに、WISC-IV、K-ABC II 等 LD 等の判定に必要な心理検査の実技を身に付けるとともに、学校等における教育的対応について学ぶことを目的・ねらいとするものである。

授業の概要

さまざまな発達障害の定義と心理・生理・病理について学ぶ。また、それらの障害を判定するためのアセスメント方法を実際に学修していく。本授業はスクーリングのみの授業である。なお、発達障害の判定とその教育的対応はスクーリングのみの科目であるが、(I) と (II) に分かれており、(I) では各発達障害の定義とその教育的対応、心理検査の歴史と、心理検査の方法を学ぶ。(II) では、(I) で学んだことを参考に、実際に心理検査の実習的学修を行い、その結果のまとめ方、活かし方について学ぶ。(I) と (II) を連続して受講することが望ましい。

授業計画

第 1 回：インクルーシブ教育とは（通級による指導及び特別支援学級における特別の教育課程の編成の意義を含む）

第 2 回：発達障害とは（心理・生理・病理、それらの相互作用、二次的な障害を含む）

第 3 回：心理検査・知能検査の歴史、心理アセスメント

第 4 回：LD の定義、LD の心理・生理・病理の特性の理解とアセスメント

第 5 回：LD がある子どもへの指導法（ICT 及び教材・教具の活用、学習環境の整備を含む）

第 6 回：ADHD の定義、ADHD の心理・生理・病理の特性の理解とアセスメント

第 7 回：ADHD がある子どもへの指導法（ICT 及び教材・教具の活用、学習環境の整備を含む）

第 8 回：自閉スペクトラム症の定義、自閉スペクトラム症の心理・生理・病理の特性の理解とアセスメント

第 9 回：自閉スペクトラム症である子どもへの指導法（ICT 及び教材・教具の活用、学習環境の整備を含む）

第 10 回：知的障害の定義、知的障害の心理・生理・病理の特性の理解とアセスメント

第 11 回：知的障害がある子どもへの指導法（ICT 及び教材・教具の活用、学習環境の整備を含む）

第 12 回：LD 等発達障害への教育的対応①（特別の教育課程の編成方法とカリキュラム・マネジメント）

第 13 回：LD 等発達障害への教育的対応②（自立活動における個別の指導計画の作成）

第 14 回：LD 等発達障害への教育的対応③（自立活動の指導との関連を踏まえた各教科等の授業づくりと授業改善）

第 15 回：LD 等発達障害への教育的対応④（特別支援学校のセンター機能としての役割の理解、家庭や医療、福祉及び労働機関との連携）

定期試験

テキスト

- (1) 安住 ゆう子 編著 (2019) 『改定新版子どもの発達が気になるときに読む 心理検査入門：特性にあわせた支援のために』 合同出版 ISBNコード：9784772613835
- (2) 文部科学省(平成29年)『特別支援学校幼稚部教育要領・特別支援学校小学部・中学部学習指導要領』海文堂出版 ISBNコード：978-4303124243
- (3) 本講義で配布する資料

参考書・参考資料等

- (1) 山口薫(2011)『新訂 親と教師のためのLD相談室』中央法規 ISBNコード：9784805835487
- (2) 山口薫(編集)・西永 堅(編集)(2010)『新訂 学習障害・学習困難の判定と支援教育』文教資料協会 ISBNコード：9784938649272
- (3) 平成29年改訂幼稚園教育要領
- (4) 小学校学習指導要領(平成29年告示)
- (5) 中学校学習指導要領(平成29年告示)
- (6) 高等学校学習指導要領(平成30年告示)

* (3)～(6)の資料は文部科学省ホームページでPDF版あり。

<文部科学省ホームページURL>

https://www.mext.go.jp/a_menu/shotou/new-cs/1384661.htm

- (7) 特別支援学校幼稚部教育要領 小学部・中学部学習指導要領
- (8) 特別支援学校教育要領・学習指導要領解説 総則編(幼稚部・小学部・中学部)
- (9) 特別支援学校学習指導要領解説 各教科等編(小学部・中学部)
- (10) 特別支援学校教育要領・学習指導要領解説 自立活動編(幼稚部・小学部・中学部)
- (11) 特別支援学校高等部学習指導要領
- (12) 特別支援学校学習指導要領解説 総則等編(高等部)

* (7)～(12)の資料は文部科学省ホームページでPDF版あり。

<文部科学省ホームページURL>

https://www.mext.go.jp/a_menu/shotou/tokubetu/main/1386427.htm

学生に対する評価

スクーリング評価(50%)、科目修得試験(50%)の割合で総合して評価する

授業科目名： 発達障害の判定とその 教育的対応Ⅱ	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： 1 単位	担当教員名： 西永 堅 担当形態： 単独
科 目	免許状に定められることとなる特別支援教育領域以外の領域に関する科目		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	・心身に障害のある幼児・児童又は生徒の心理・生理及び病理に関する科目 ・心身に障害のある幼児・児童又は生徒の教育課程及び指導法に関する科目 (中心領域：発達)		
授業のテーマ及び到達目標			
(1) 発達障害に含まれる LD、ADHD、自閉スペクトラム症、知的障害等の判定のための心理検査にはどんなものがあるかを知り、その検査法を身につける。			
(2) 発達障害のある幼児、児童又は生徒の認知発達の特徴を捉える心理検査として、実際に WISC-Ⅳ、K-ABCⅡ 等検査方法を理解する。			
(3) 心理検査の結果のまとめ方を学習し、LD、ADHD、自閉スペクトラム症、知的障害等の特徴と個別の手立て（ICT 及び教材・教具の活用、学習環境の整備を含む）及び自立活動における個別の指導計画について理解する。			
(4) 心理検査の結果を活かした特別の教育課程の編成方法とカリキュラム・マネジメント、各教科等の指導の授業設計及び授業改善のあり方について理解する。			
(5) 心理検査の結果を活かした家庭や医療、福祉及び労働機関との連携について理解する。			
特別支援教育の発展に伴い、新たにその対象に加えられるようになった「学習障害（LD）」を中心に、判定方法とその教育的対応の具体的方策を学習することを目的とする。			
学習障害（LD）とは、基本的には全般的な知的発達に遅れはないが、「聞く」「話す」「読む」「書く」「計算する」「推論する」等の学力の習得と使用に著しい困難を有する者を指し、文部科学省の調査によれば、ADHD（注意欠陥／多動性障害）、高機能自閉症等と合わせると学齢児の6％以上存在することが指摘されている。			
これらの子どもの適切な教育のためには、その判定の方法が確立していなければならず、またその判定技能を身に付けることが必要である。			
学力に遅れが見られる児童生徒について、特に算数・数学、国語の学力を精査し、LD の疑いがあれば、医学的な検査を専門医に依頼するとともに、各種の心理検査を実施し、その結果に基づいて適切な教育的対応を行う必要がある。			
本授業は、一般的発達検査、知能検査とともに、WISC-Ⅳ、K-ABCⅡ 等LD等の判定に必要な			

心理検査の実技を身に付けるとともに、その教育的対応について学ぶことを目的・ねらいとするものである

授業の概要

各発達障害の定義について学ぶ。また、それらの障害を判定するためのアセスメント方法を実際に学修していく。本授業はスクーリングのみの授業である。なお、発達障害の判定とその教育的対応はスクーリングのみの科目であるが、（Ⅰ）と（Ⅱ）に分かれており、（Ⅰ）では学習障害の定義とその教育的対応、心理検査の歴史と、心理検査の方法を学ぶ。（Ⅱ）では、（Ⅰ）で学んだことを参考に、実際に心理検査の実習的学修を行い、その結果のまとめ方、活かし方について学ぶ。（Ⅰ）と（Ⅱ）を連続して受講することが望ましい。

授業計画

第1回：心理検査の活用

第2回：発達障害がある幼児、児童又は生徒の認知発達の特徴を捉える① 知能指数、知能検査について

第3回：発達障害がある幼児、児童又は生徒の認知発達の特徴を捉える② WISC-IVとは：全検査IQ・合成得点について

第4回：発達障害がある幼児、児童又は生徒の認知発達の特徴を捉える③ WISC-IVとは：言語理解・知覚推理について

第5回：発達障害がある幼児、児童又は生徒の認知発達の特徴を捉える④ WISC-IVとは：ワーキングメモリー・処理速度について

第6回：発達障害がある幼児、児童又は生徒の認知発達の特徴を捉える⑤ K-ABC II とは：認知尺度と習得度尺度について

第7回：発達障害がある幼児、児童又は生徒の認知発達の特徴を捉える⑥ K-ABC II とは：継次処理・同時処理について

第8回：発達障害がある幼児、児童又は生徒の認知発達の特徴を捉える⑦ K-ABC II とは：学習能力・計画能力について

第9回：発達障害がある幼児、児童又は生徒の認知発達の特徴を捉える⑧ その他の心理アセスメントについて

第10回：LD がある子どもの知能検査結果の特徴と個別の手立て（ICT 及び教材・教具の活用、学習環境の整備を含む）及び自立活動における個別の指導計画

第11回：ADHD がある子どもの知能検査結果の特徴と個別の手立て（ICT 及び教材・教具の活用、学習環境の整備を含む）及び自立活動における個別の指導計画

第12回：自閉スペクトラム症である子どもの知能検査結果の特徴と個別の手立て（ICT 及び教材・教具の活用、学習環境の整備を含む）及び自立活動における個別の指導計画

第13回：検査結果の保護者・本人への伝え方、指導・支援につながる活かし方

第14回：検査結果を活かした特別の教育課程の編成の意義と方法、カリキュラム・マネジメ

<p>ント、自立活動の指導との関連を踏まえた各教科等の指導の授業設計及び授業改善</p> <p>第15回：検査結果を活かした家庭や医療、福祉及び労働機関との連携</p> <p>定期試験</p>
<p>テキスト</p> <p>(1) 安住 ゆう子 編著 (2019) 『改定新版子どもの発達が気になるときに読む 心理検査入門：特性にあわせた支援のために』 合同出版 ISBNコード：9784772613835</p> <p>(2) 文部科学省(平成29年)『特別支援学校幼稚部教育要領・特別支援学校小学部・中学部学習指導要領』 海文堂出版 ISBNコード：978-4303124243</p> <p>(3) 本講義で配布する資料</p>
<p>参考書・参考資料等</p> <p>(1) 山口薫(2011)『新訂 親と教師のためのLD相談室』中央法規 ISBNコード：9784805835487</p> <p>(2) 山口薫(編集)・西永 堅(編集)(2010)『新訂 学習障害・学習困難の判定と支援教育』 文教資料協会 ISBNコード：9784938649272</p> <p>(3) 平成29年改訂幼稚園教育要領</p> <p>(4) 小学校学習指導要領(平成29年告示)</p> <p>(5) 中学校学習指導要領(平成29年告示)</p> <p>(6) 高等学校学習指導要領(平成30年告示)</p> <p>* (3)～(6)の資料は文部科学省ホームページでPDF版あり。</p> <p><文部科学省ホームページURL></p> <p>https://www.mext.go.jp/a_menu/shotou/new-cs/1384661.htm</p> <p>(7) 特別支援学校幼稚部教育要領 小学部・中学部学習指導要領</p> <p>(8) 特別支援学校教育要領・学習指導要領解説 総則編(幼稚部・小学部・中学部)</p> <p>(9) 特別支援学校学習指導要領解説 各教科等編(小学部・中学部)</p> <p>(10) 特別支援学校教育要領・学習指導要領解説 自立活動編(幼稚部・小学部・中学部)</p> <p>(11) 特別支援学校高等部学習指導要領</p> <p>(12) 特別支援学校学習指導要領解説 総則等編(高等部)</p> <p>* (7)～(12)の資料は文部科学省ホームページでPDF版あり。</p> <p><文部科学省ホームページURL></p> <p>https://www.mext.go.jp/a_menu/shotou/tokubetu/main/1386427.htm</p>
<p>学生に対する評価</p> <p>スクーリング評価(50%)、科目修得試験(50%)の割合で総合して評価する</p>